

**2012年3月期 第2四半期(中間)決算の概要
および**

2012年3月期の業績見通しと取組み

2011年10月27日(木)

**コマツ
経営管理部**

1. 2012年3月期 第2四半期(7－9月)

および

上期(4－9月)の実績

2012年3月期 上期（4～9月）の概況

- 1. 売上・損益：** 建設機械・車両、産業機械他、両部門とも対前年同期比増収増益。
営業利益は+27.9%の増益、売上高営業利益率は+1.4ポイント改善し13.5%。

	2010年4～9月 (FY10/上期)	2011年4～9月 (FY11/上期)	対前年同期比
連結売上高	8,597 億円	9,858 億円	+14.7 %
営業利益	1,039 億円	1,329 億円	+27.9 %
売上高営業利益率	12.1 %	13.5 %	+1.4 ポイント
純利益*1	637 億円	946 億円	+48.5 %
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	0.52 (0.26)	0.52 (0.24)	- (0.02ポイント改善)

*1 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810による「当社株主に帰属する四半期純利益」

2. 各セグメントの状況

■ **建設機械・車両：** 中国の需要が減少したものの、他地域、鉱山機械、部品は堅調に推移し、売上高は対前年同期比+12.0%増収。為替レートが、ドル、ユーロ、元に対して大幅な円高となったが、数量増に加え、販売価格の改善、原価低減等に努めたことにより、セグメント利益は対前年同期比+17.5%増益。セグメント利益率も14.0%に改善。

■ **産業機械他：** ワイヤソーの受注が減少したものの、既受注分の出荷が進むとともに、プレス機械、工作機械および仮設ハウスの販売増により対前年同期比+34.3%の増収、セグメント利益も対前年同期比2.5倍に伸長。

(参考) 売上高、利益の米ドル、ユーロ換算値*

(百万米ドル)	FY10/上期	FY11/上期	増減
連結売上高	10,235	12,803	+ 25.1%
営業利益	1,237	1,727	+ 39.6%
純利益	759	1,230	+ 62.1%

(百万ユーロ)	FY10/上期	FY11/上期	増減
連結売上高	7,542	9,479	+ 25.7%
営業利益	912	1,278	+ 40.1%
純利益	559	910	+ 62.8%

*各期末の為替レートを使用。

3. 中間配当金： 21円（前中間期：18円）

(注) 本資料では第2四半期累計(4～9月)を「上期」と表示します。

2012年3月期 第2四半期（7～9月）の連結売上高と損益

- ・中国市場の減速を、その他地域、鉱山機械、部品等でカバーし、対前年同期比増収増益。
- ・建設機械・車両、産業機械他両部門ともに利益率が改善。売上高営業利益率は13.1%に向上。

%

: 利益率

(): 外部顧客向け売上高

金額単位: 億円

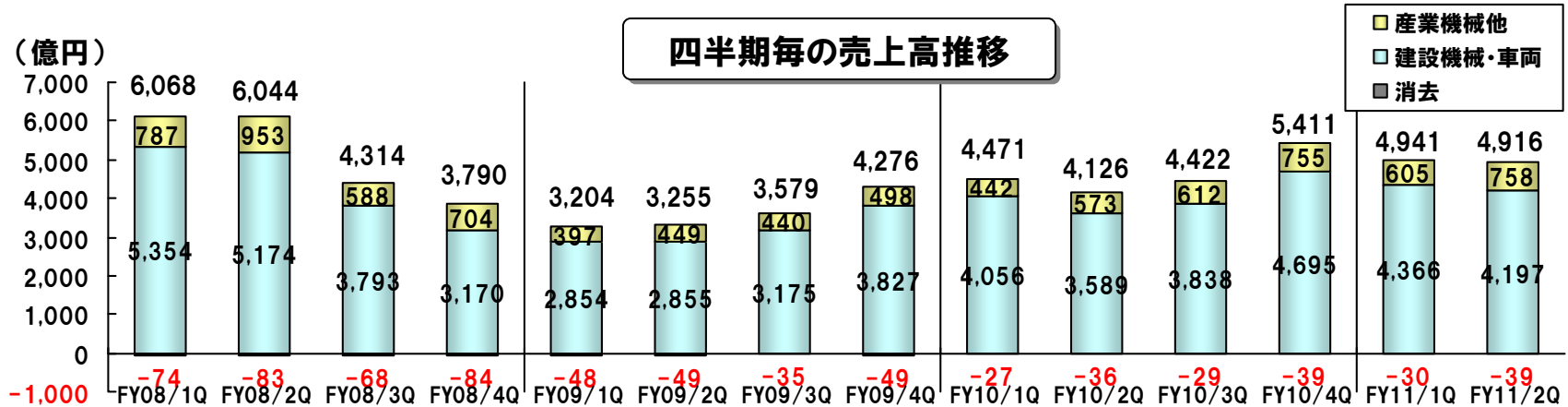
	2010年7～9月 (FY10/2Q) 1ドル=85円 1ユーロ=111円 1元=12.6円	2011年7～9月 (FY11/2Q) 1ドル=77円 1ユーロ=109円 1元=12.1円	対前年同期比	
			増 減	伸 率
売上高	4,126	4,916	+790	+19.2%
- 建設機械・車両	(3,584) 3,589	(4,183) 4,197	(+599) +607	(+16.7%) +16.9%
- 産業機械他	(541) 573	(733) 758	(+191) +185	(+35.4%) +32.3%
- 消去	▲36	▲39	▲2	-
セグメント利益	12.3% 507	13.1% 646	+138	+27.2%
- 建設機械・車両	13.4% 480	14.1% 592	+112	+23.4%
- 産業機械他	7.2% 40	8.3% 62	+21	+53.3%
- 消去または全社	▲13	▲9	+4	-
その他の営業収益(▲費用)	*1 ▲9	0	+9	-
営業利益	12.1% 498	13.1% 645	+147	+29.6%
その他の収益(▲費用)	1	▲27	▲29	-
税引前純利益	500	618	+117	+23.6%
純利益 *2	330	389	+59	+17.8%

*1 構造改革費用▲10億円を含む

*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810による「当社株主に帰属する四半期純利益」

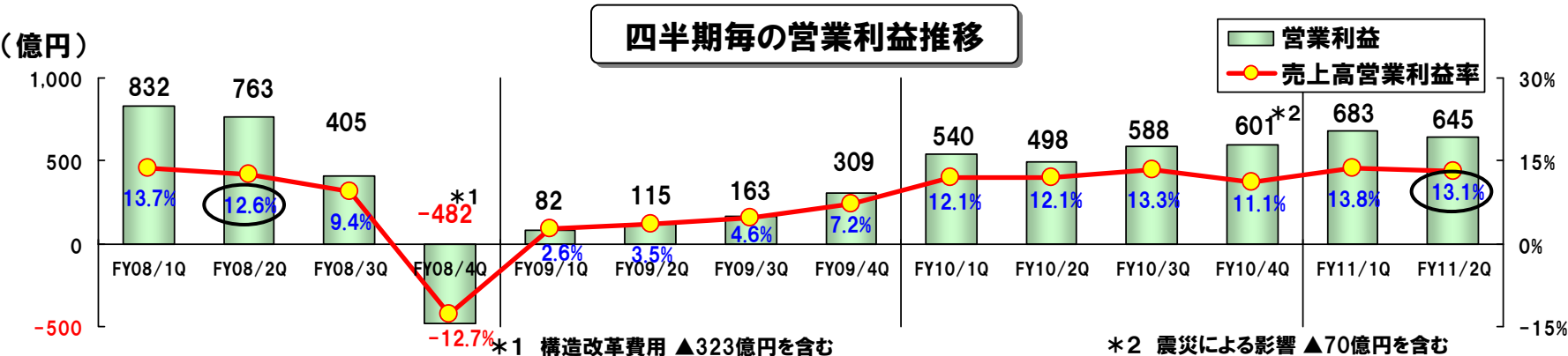
四半期毎の売上高と営業利益の推移

大幅な円高の影響を、販売価格改善、固定費抑制等により吸収し、売上高営業利益率は13.1%とリーマン・ショック前を上回る水準を維持。



為替レート

	08/1Q	08/2Q	08/3Q	08/4Q	09/1Q	09/2Q	09/3Q	09/4Q	10/1Q	10/2Q	10/3Q	10/4Q	11/1Q	11/2Q	vs08/2Q
ドル	105円	107円	95円	95円	97円	93円	90円	91円	91円	85円	82円	82円	81円	77円	▲30円 (39%高)
ユーロ	165円	159円	126円	123円	133円	133円	133円	124円	115円	111円	110円	114円	118円	109円	▲50円 (46%高)
円	15.2円	15.7円	13.9円	13.9円	14.2円	13.6円	13.2円	13.3円	13.4円	12.6円	12.4円	12.5円	12.5円	12.1円	▲3.6円 (30%高)



2012年3月期 第2四半期（7～9月）の売上高内訳

- ・建設機械・車両： 中国の減速を、その他戦略市場および伝統市場でカバーし、対前年同期比増収。
- ・産業機械他： コマツ産機、コマツNTCの増収ならびに仮設ハウスの販売増により、対前年同期比増収。

1. 建設機械・車両（地域別：外部顧客向け）

金額単位：億円

		2010年7-9月 (FY10/2Q)	2011年7-9月 (FY11/2Q)	対前年同期比	
				増減	増減率
伝統市場	日本	629	676	+46	+7.3%
	北米	421	617	+196	+46.5%
	欧州	218	292	+73	+33.7%
戦略市場	中南米	498	494	▲3	▲0.7%
	CIS	102	166	+63	+61.6%
	中国	543	388	▲154	▲28.5%
	アジア	610	810	+200	+32.9%
	オセアニア	278	379	+100	+36.2%
	中近東	118	100	▲17	▲15.1%
	アフリカ	162	256	+93	+57.8%
合計		3,584	4,183	+599	+16.7%

2. 産業機械他

	2010年7-9月 (FY10/2Q)	2011年7-9月 (FY11/2Q)	対前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機	64	129	+65	+101.6%
コマツNTC (内、ワイヤーソー)	268 (156)	276 (144)	+8 (▲12)	+3.0% (▲7.7%)
その他	241	353	+112	+46.5%
合計	573	758	+185	+32.3%

2012年3月期 上期（4～9月）の連結売上高と損益

- ・中国の需要減を、その他地域、鉱山機械、部品等でカバーし、対前年同期比増収増益。
- ・建設機械・車両、産業機械他両部門とも利益率が改善し、売上高営業利益率は13.5%と大幅に向上。

□:利益率 ():外部顧客向け売上高

金額単位:億円

	FY2010/ 上期 1ドル=88円 1ユーロ=113円 1元=13.0円	FY2011/ 上期 1ドル=79円 1ユーロ=114円 1元=12.3円	増 減	
売上高	8,597	9,858	+1,261	+14.7%
- 建設機械・車両	(7,636) 7,646	(8,536) 8,564	(+900) +917	(+11.8%) +12.0%
- 産業機械他	(961) 1,015	(1,321) 1,363	(+360) +348	(+37.5%) +34.3%
- 消去	▲64	▲69	▲5	-
セグメント利益	12.2% 1,051	13.5% 1,327	+276	+26.3%
- 建設機械・車両	13.4% 1,023	14.0% 1,201	+178	+17.5%
- 産業機械他	6.0% 61	11.1% 151	+89	+146.6%
- 消去または全社	▲32	▲25	+7	-
その他の営業収益(▲費用)	*1 ▲12	2	+14	-
営業利益	12.1% 1,039	13.5% 1,329	+290	+27.9%
その他の収益(▲費用)	▲38	▲27	+10	-
税引前純利益	1,001	1,302	+301	+30.1%
純利益*2	637	946	+309	+48.5%

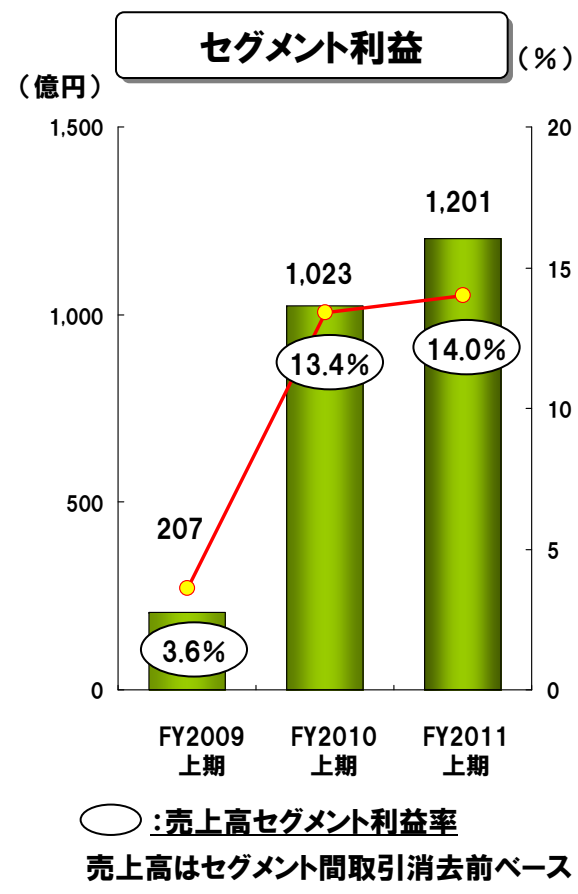
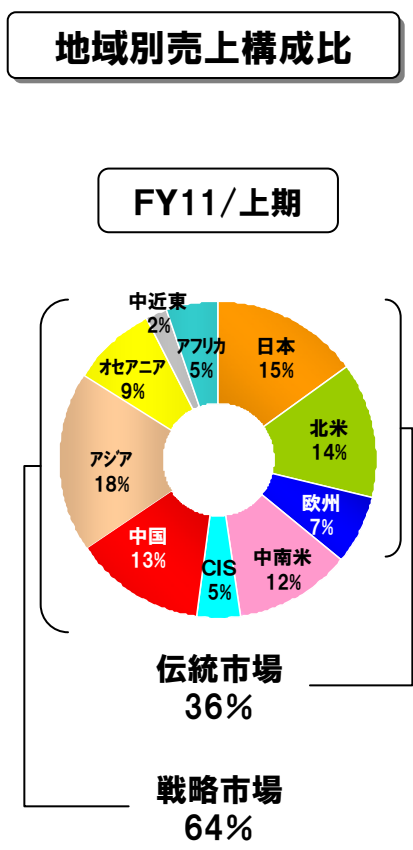
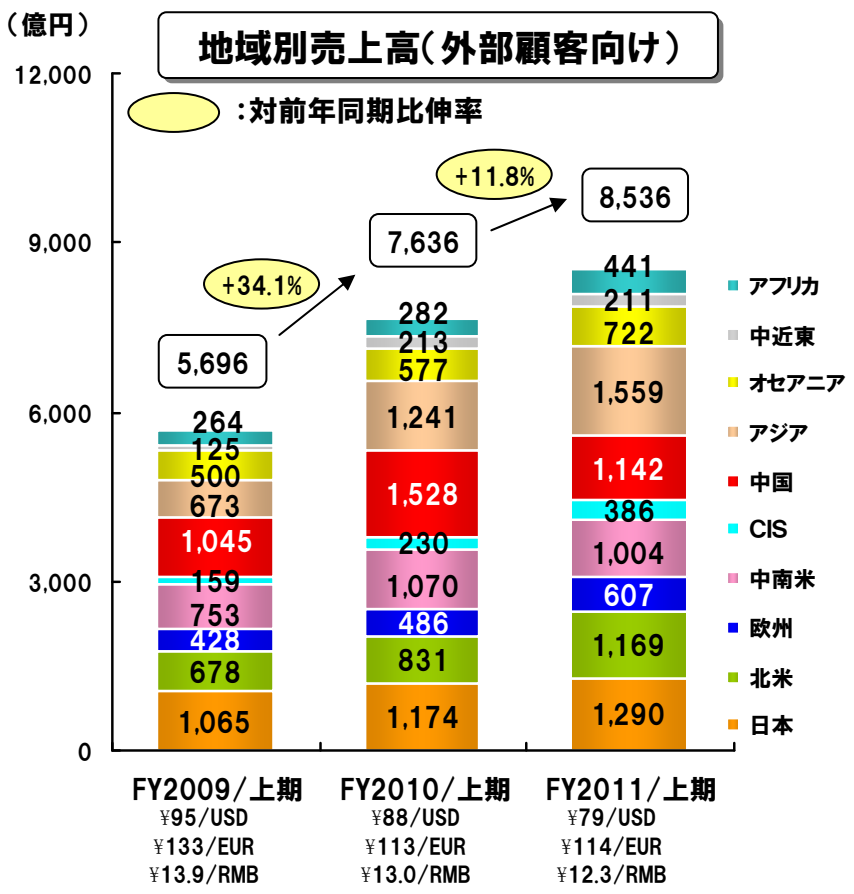
1株当たり配当金(円)	18円	21円	+3円
-------------	-----	-----	-----

*1 構造改革費用 ▲22億円を含む

*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810による「当社株主に帰属する四半期純利益」

<建設機械・車両> 地域別売上高とセグメント利益

- ・中国を除く戦略市場、伝統市場の販売増により、対前年同期比+11.8%の増収。
- ・大幅な円高にもかかわらず、売上高セグメント利益率は14.0%に向上。



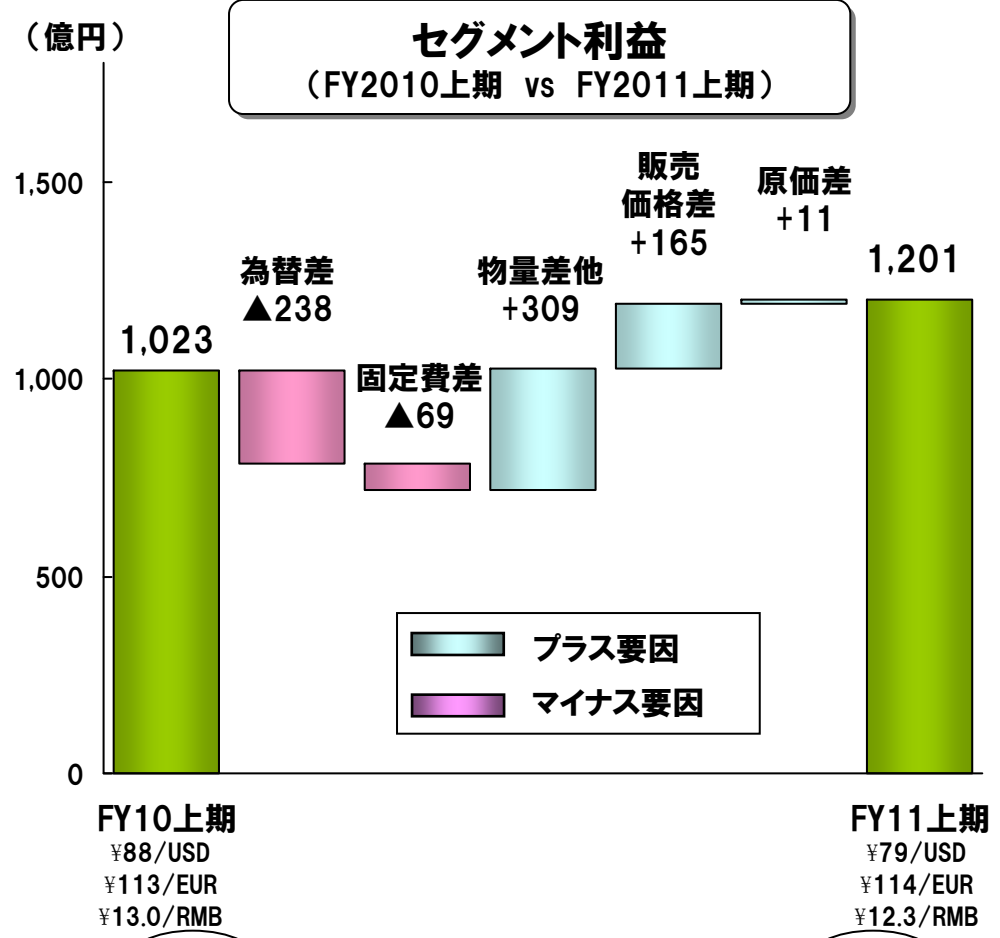
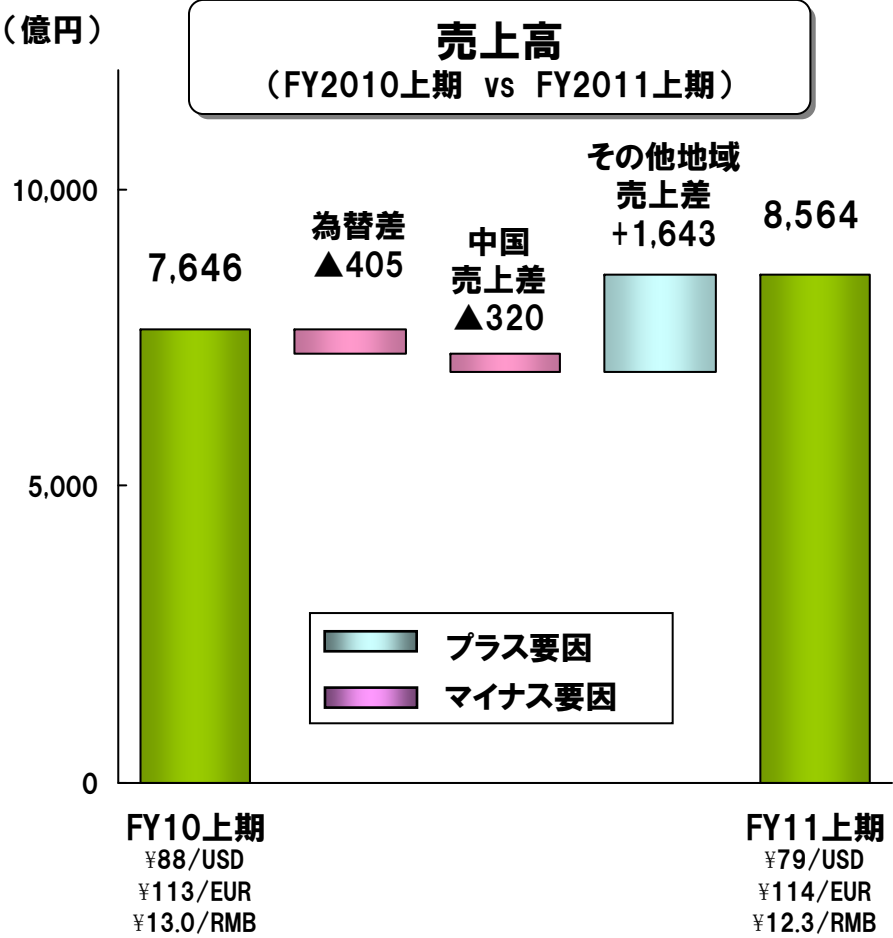
**売上高伸率
(対前年同期比)**

%	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
FY10上期	+10.2%	+22.5%	+13.4%	+42.1%	+44.7%	+46.1%	+84.4%	+15.4%	+69.3%	+6.7%	+34.1%
FY11上期	+9.9%	+40.7%	+24.9%	▲6.2%	+67.3%	▲25.2%	+25.7%	+25.1%	▲1.1%	+56.5%	+11.8%

＜建設機械・車両＞ 売上高・セグメント利益の増減要因(上期)

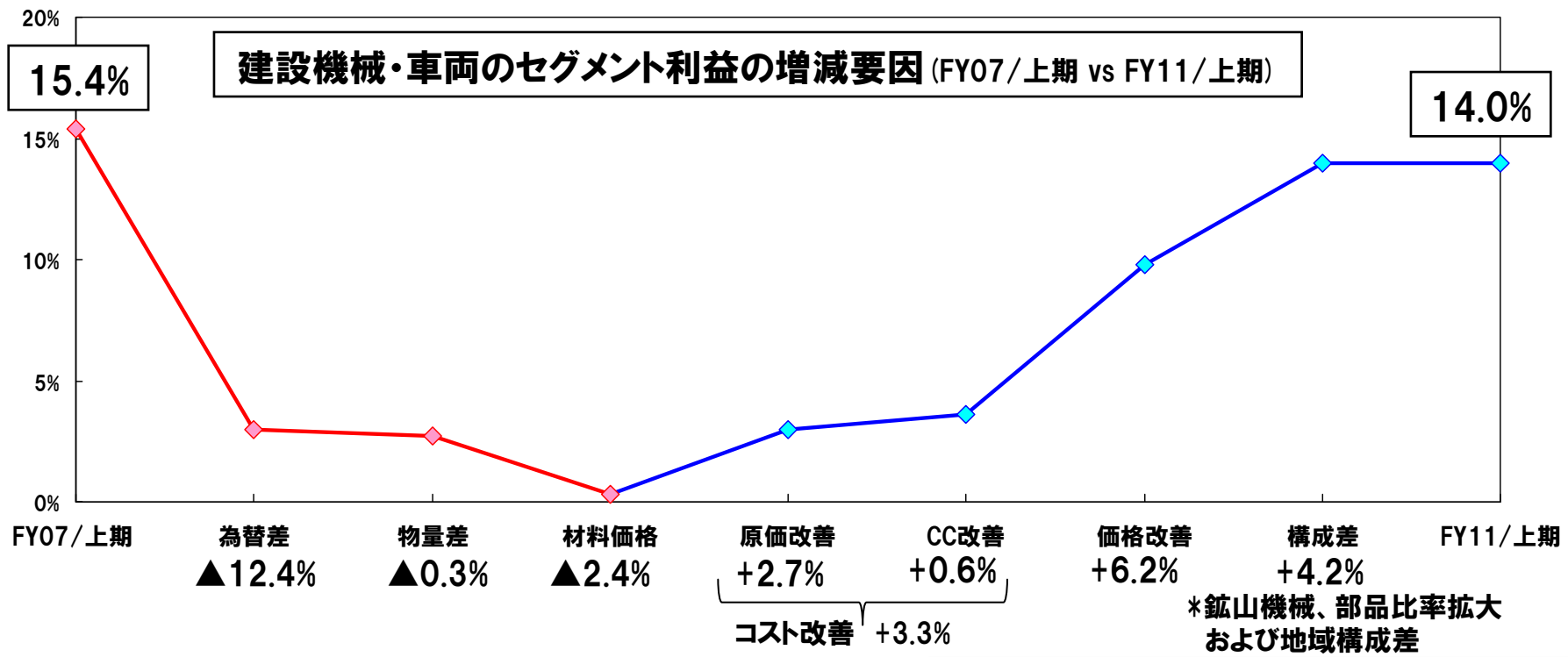
売上高: 円高及び中国市場減速によるマイナスをその他地域、鉱山機械、部品等でカバーし、+917億円の増収。

セグメント利益: 円高および固定増によるマイナスを物量差他でカバー。加えて販売価格の改善、原価低減等の努力により、+178億円の増収。



<建設機械・車両> セグメント利益の増減要因(FY07上期 vs. FY11上期)

大幅な円高の影響を、販売価格の改善、コスト改善等の努力と収益性の高い鉱山機械、部品等の販売構成比の増加によりカバーし、高い利益率を維持。



<為替の変化>

FY07/上期	FY11/上期	差
¥119/USD	¥79/USD	▲40円
¥163/EUR	¥114/EUR	▲49円
¥15.7/RMB	¥12.3/RMB	▲3.4円

<減益要因>

- ・大幅な円高の進行
- ・材料価格の上昇

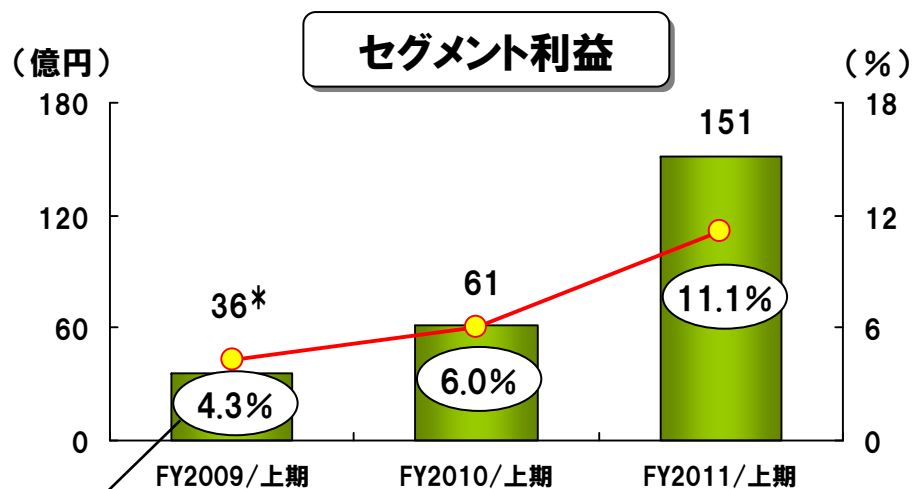
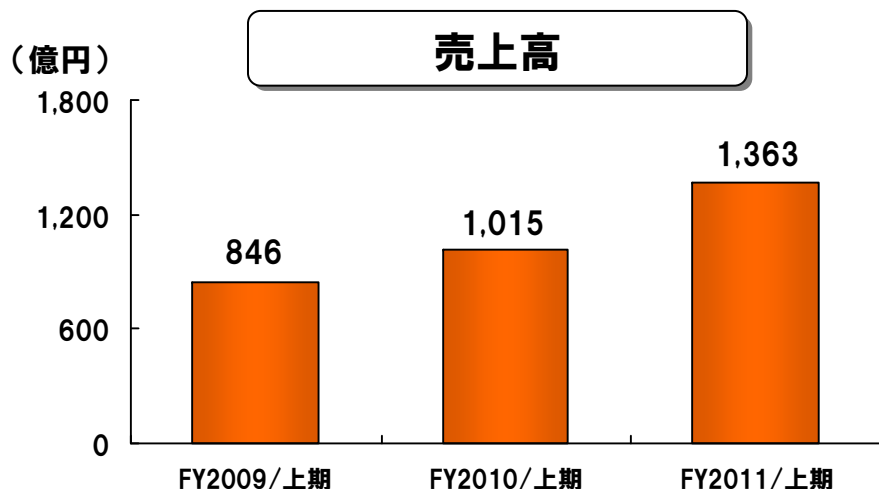
<対応状況>

- ・販売価格の改善・コスト改善の継続
- ・構造改革、固定費削減
- ・高成長・高収益分野へのシフト/比重拡大
- ・部品/リマン生産能力向上

リーマンショック前の利益率を維持

<産業機械他> 売上高とセグメント利益

- ・コマツ産機、コマツNTCとも増収。加えて仮設ハウスの販売増により、対前年同期比+348億円の増収。
- ・セグメント利益は2.5倍となり、セグメント利益率も+5.1ポイント改善し11.1%。



*貸倒引当金戻入益17億円を含む

売上高セグメント利益率

金額単位: 億円

売上高の内訳
(FY2010/上期 vs. FY2011/上期)

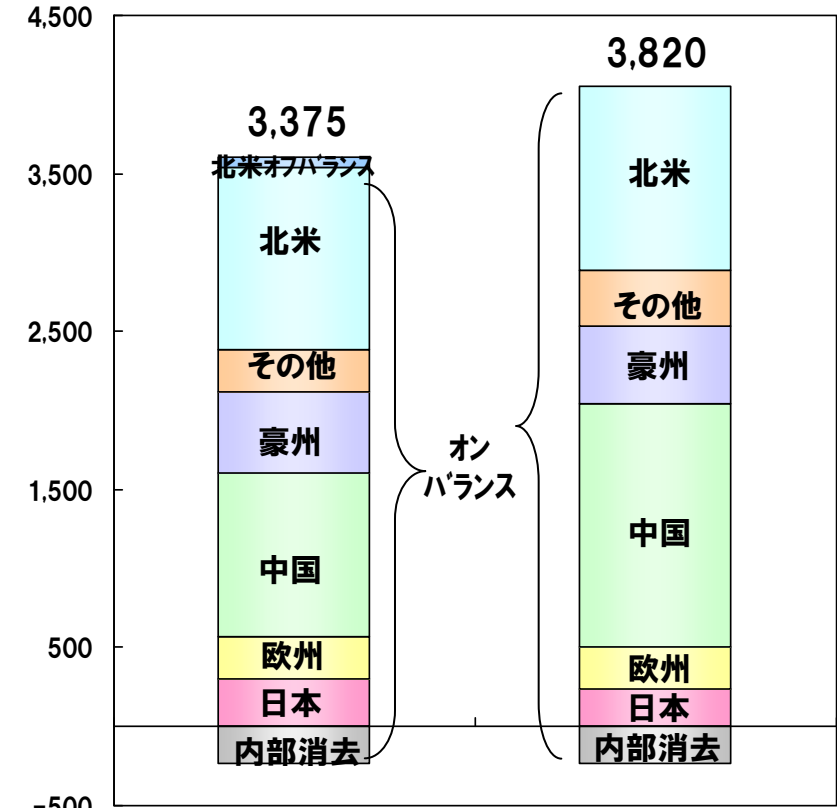
	FY10/ 上期	FY11/ 上期	増減
コマツ産機	148	196	+48
コマツNTC (内、ワイヤーソー)	511 (278)	686 (392)	+175 (+114)
その他	356	481	+125
合計	1,015	1,363	+348

リテールファイナンスの状況

・引き続き戦略市場で資産を拡大。対前年同期比増収増益。

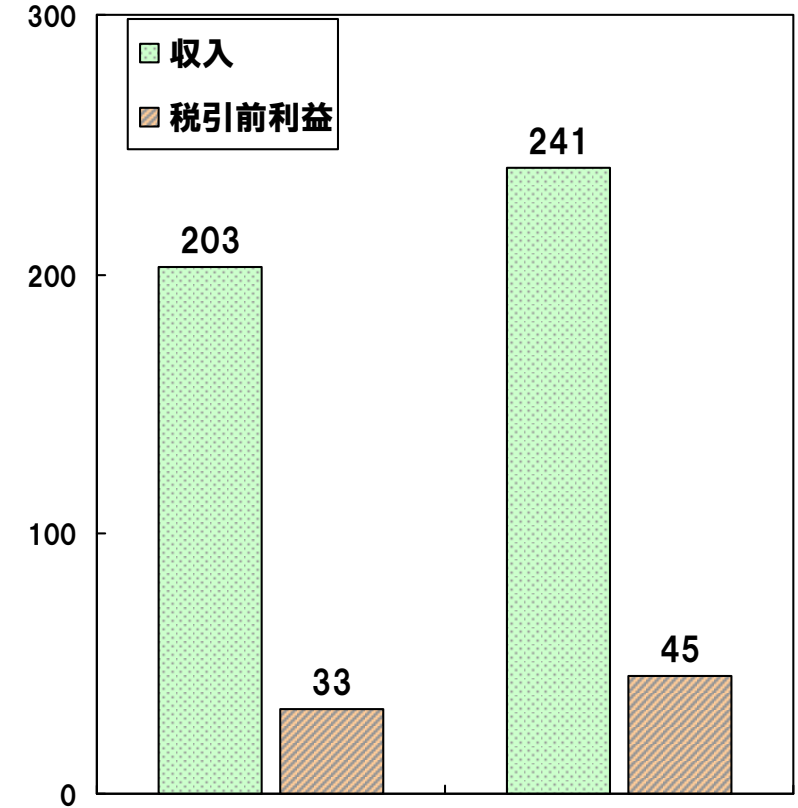
リテールファイナンス子会社の状況（社内管理ベース）

1. 資産の状況



(ドル)	84円	77円
(ユーロ)	114円	104円
(元)	12.5円	12.0円

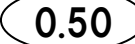
2. 収益の状況



(ドル)	88円	79円
(ユーロ)	113円	114円
(元)	13.0円	12.3円

連結貸借対照表

- ・総資産はほぼ前期末並みの約2兆1,500億円。
- ・リテールファイナンス会社を除いたネットD/Eレシオも前期末の水準を維持。

 ネットD/Eレシオ 金額単位:億円	2011.3.31 1ドル=83円 1ユーロ=118円 1元=12.7円	2011.9.30 1ドル=77円 1ユーロ=104円 1元=12.0円	増 減
現金・預金(含む定期預金) [a]	849	862	+ 13
受取手形・売掛金(含む長期売上債権)	7,160	6,673	▲486
＜除くりテールファイナンス会社＞	<4,193>	<3,528>	<▲665>
棚卸資産	4,738	5,228	+ 489
有形固定資産	5,083	5,081	▲2
その他資産	3,658	3,605	▲53
資産合計	21,491	21,451	▲39
支払手形・買掛金	3,089	2,812	▲276
借入金・社債 [b]	5,440	5,730	+ 289
＜除くりテールファイナンス会社＞	<2,769>	<2,866>	<+ 97>
その他の負債	3,234	3,130	▲104
負債合計	11,764	11,672	▲91
(株主資本比率)	(43.0%)	(43.8%)	(+0.8ポイント)
株主資本	9,238	9,388	+ 149
非支配持分	488	390	▲97
負債及び純資産合計	21,491	21,451	▲39
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	 0.50 4,591	 0.52 4,867	+ 276
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	 0.24	 0.24	

2. 2012年3月期の業績見通し

2012年3月期(2011年度)の業績見通し(概要)

1. 売上げ・損益:・前期実績に対し、売上高は+11.2%の増収、営業利益は+26.5%の増益、売上高営業利益率は1.7ポイント改善し、13.8%となる見通し。

・中国における建設機械の需要減を他地域、鉱山機械、部品の増でカバーし、販売量は期初予想に達する見通しだが、為替の大幅な円高により、売上高・利益は期初予想を下回る見通し。

	FY2010 (実績)	FY2011 (最新見通し)	対前期比	(参考) FY2011 (期初予想)
連結売上高	18,431億円	20,500億円	+11.2%	21,500億円
営業利益	2,229億円	2,820億円	+26.5%	3,050億円
売上高営業利益率	12.1%	13.8%	+1.7ポイント	14.2%
純利益*	1,507億円	1,860億円	+23.4%	2,000億円
ROE	17.2%	19.6%	+2.4ポイント	20.0%
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	0.50 (0.24)	0.52 (0.24)	+0.02ポイント (-)	0.48 (0.22)

* 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810による「当社株主に帰属する当期純利益」

2. 各セグメントの状況

■ 建設機械・車両: 中国の需要減をそれ以外の地域、鉱山機械、部品の増でカバー。大幅な円高の影響で、期初予想は下回るものの、対前期比では、売上高は+11.2%増収、セグメント利益は+22.7%増益、セグメント利益率は15.1%に改善の見通し。

■ 産業機械他: ワイヤソーの販売減を、プレス機械、工作機械、仮設ハウス等の販売増でカバーし、売上高は対前期比+9.1%増収の見通し。

3. 配当金 1株当たり配当金は、42円を見込む。(配当性向は22%)

4. 自己株式の取得・消却 資本効率の向上と株主への利益還元を図るため、16,000,000株または300億円を上限とする自己株式の取得を実施し、全数を消却する。

(参考) 売上高、利益の米ドル、ユーロ換算値*

(百万米ドル)	FY2010 (実績)	FY2011 (最新見通し)	対前期比
連結売上高	22,206	26,623	+19.8%
営業利益	2,686	3,662	+36.3%
純利益	1,816	2,416	+33.0%

(百万ユーロ)	FY2010 (実績)	FY2011 (最新見通し)	対前期比
連結売上高	15,620	19,340	+23.8%
営業利益	1,889	2,660	+40.8%
純利益	1,278	1,755	+37.3%

*FY2010は期末時点の為替レート、FY2011の最新見通しは、下期見通しレートを使用して換算。

2012年3月期の業績見通し

- ・売上高は対前期比+11.2%増収、営業利益は+26.5%増益。売上高営業利益率は13.8%に改善の見通し。
- ・建設機械・車両の売上高セグメント利益率は前期より更に改善し、15%を超える見通し。

% 利益率 ():外部顧客向け売上高 < >:下期為替レート(見通し) 金額単位:億円

	FY10実績 1ドル=85円 1ユーロ=113円 1元=12.7円	FY11予想(期初) 1ドル=82円 1ユーロ=116円 1元=12.7円	FY11見通し(最新) 1ドル=78円 <77円> 1ユーロ=110円 <106円> 1元=12.2円 <12.1円>	対前期比増減	
売上高	18,431	21,500	20,500	+2,068	+11.2%
- 建設機械・車両	(16,156) 16,180	(18,680) 18,700	(17,980) 18,000	(+1,823) +1,819	(+11.3%) +11.2%
- 産業機械他	(2,274) 2,383	(2,820) 2,900	(2,520) 2,600	(+245) +216	(+10.8%) +9.1%
- 消去	▲ 133	▲ 100	▲ 100	+33	-
セグメント利益	12.7% 2,349	14.4% 3,100	14.0% 2,860	+510	+21.7%
- 建設機械・車両	13.6% 2,208	15.5% 2,890	15.1% 2,710	+501	+22.7%
- 産業機械他	8.8% 209	10.3% 300	7.7% 200	▲ 9	▲ 4.6%
- 消去または全社	▲ 68	▲ 90	▲ 50	+18	-
その他の営業収益(▲費用)	*1 ▲ 120	▲ 50	▲ 40	+80	-
営業利益	12.1% 2,229	14.2% 3,050	13.8% 2,820	+590	+26.5%
その他の収益(▲費用)	▲ 31	▲ 50	▲ 60	▲ 28	-
税引前純利益	2,198	3,000	2,760	+561	+25.6%
純利益 *2	1,507	2,000	1,860	+352	+23.4%
1株当たり配当金(円)	38円	42円	42円	+ 4円	

*1 構造改革費用▲38億円を含む

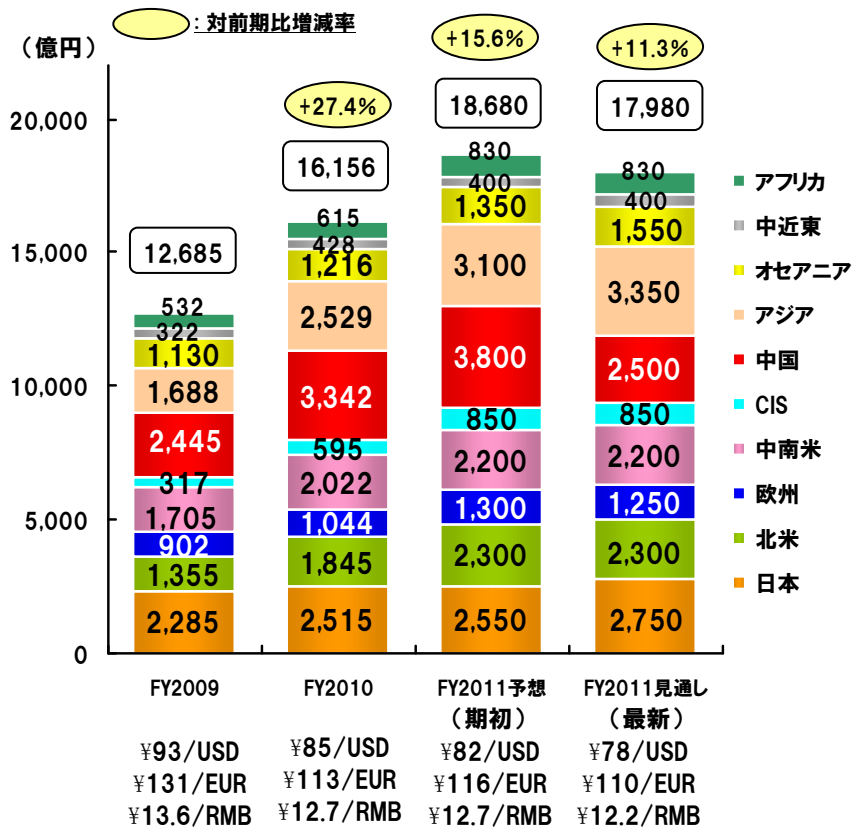
*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

3. 建設機械・車両部門の事業環境と見通し

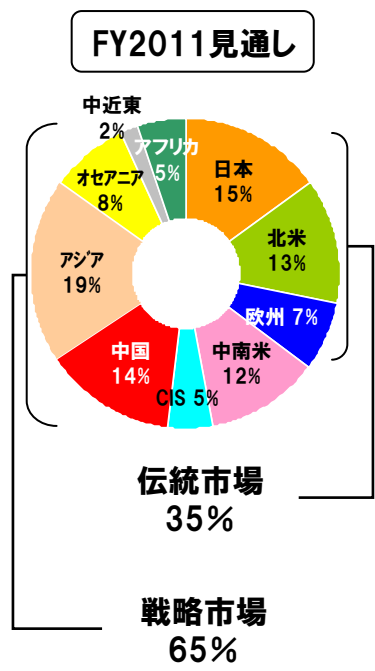
<建設機械・車両> 地域別売上高とセグメント利益の見通し

- ・中国の需要減を他地域及び鉱山機械、部品の増等でカバーし、外部顧客向け売上高は対前期比+11.3%増収、セグメント利益は+22.7%増益、売上高セグメント利益率は15%を超える見通し。
- ・販売量は期初予想の水準に達するものの、大幅な円高により、売上高・セグメント利益は期初予想を下回る見通し。

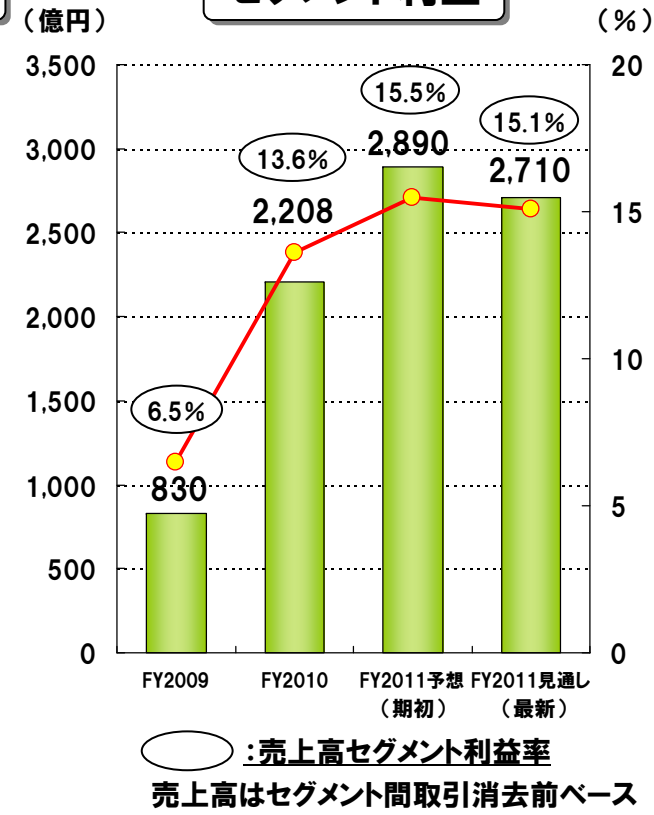
地域別売上高(外部顧客向け)



地域別売上構成比



セグメント利益

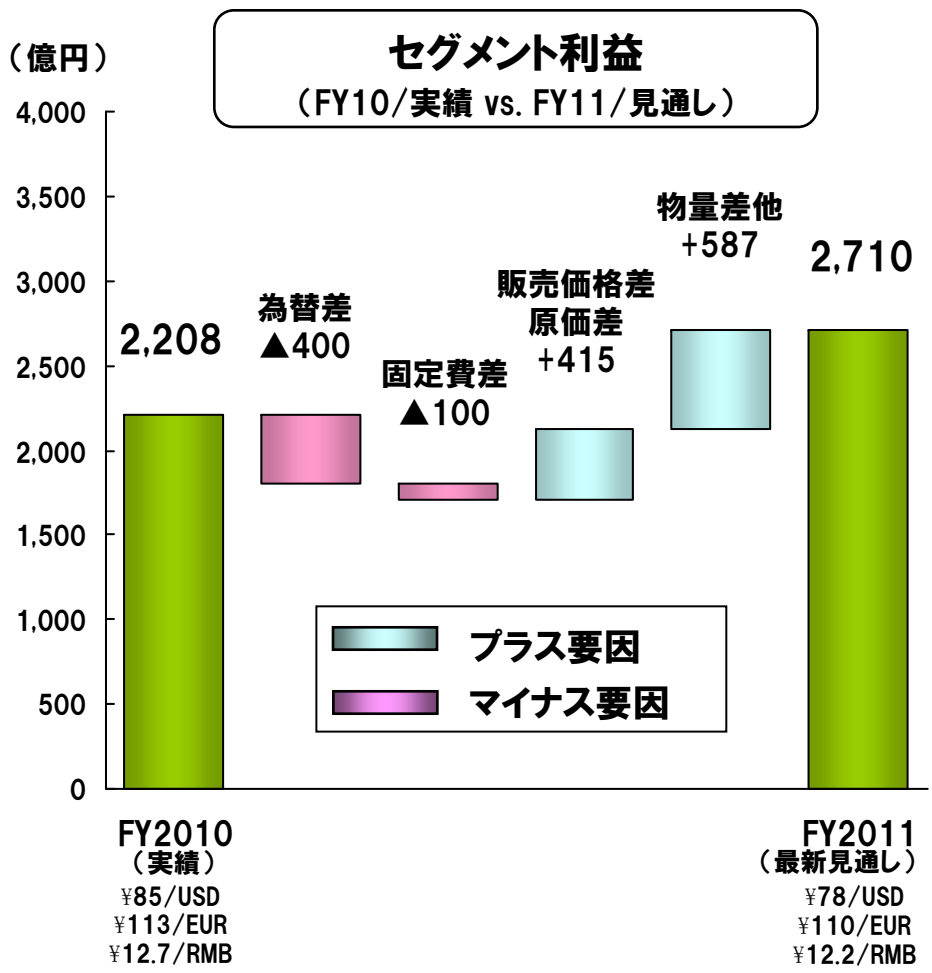
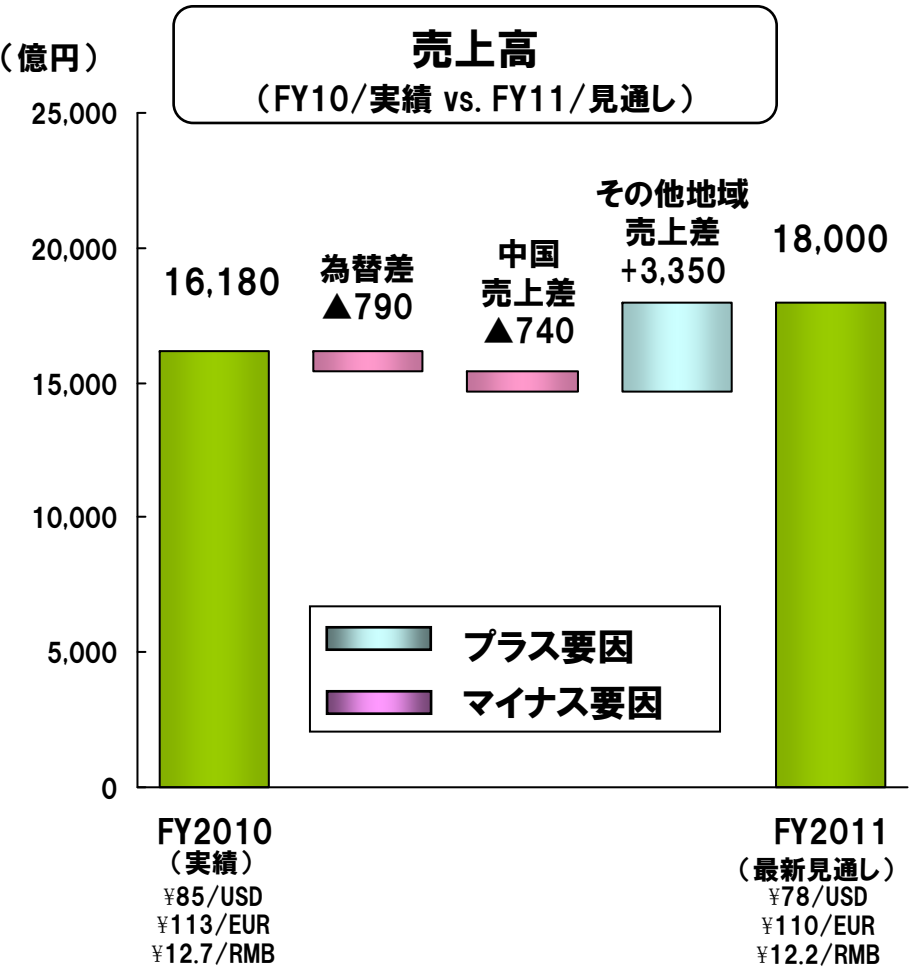


売上高伸率 (前期比)

%	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
FY10実績	+10.1%	+36.2%	+15.7%	+18.5%	+87.6%	+36.7%	+49.8%	+7.6%	+33.1%	+15.6%	+27.4%
FY11最新見通し	+9.3%	+24.6%	+19.7%	+8.8%	+42.7%	▲25.2%	+32.4%	+27.5%	▲6.7%	+34.8%	+11.3%

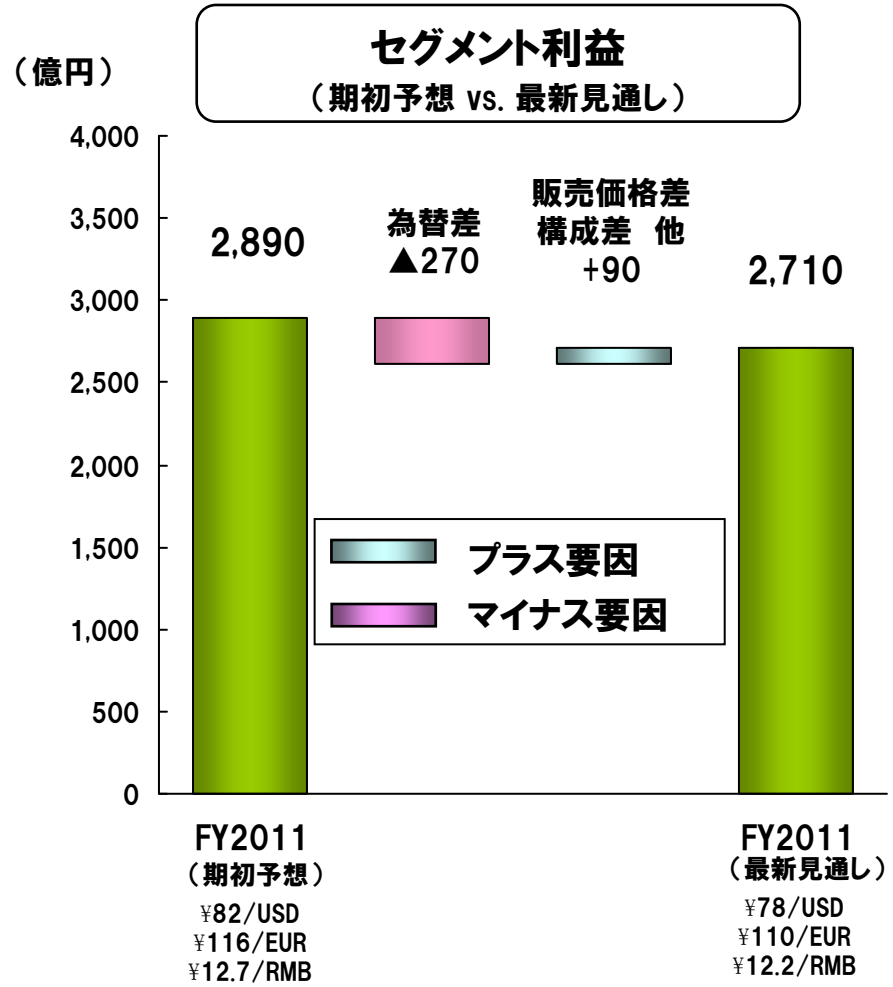
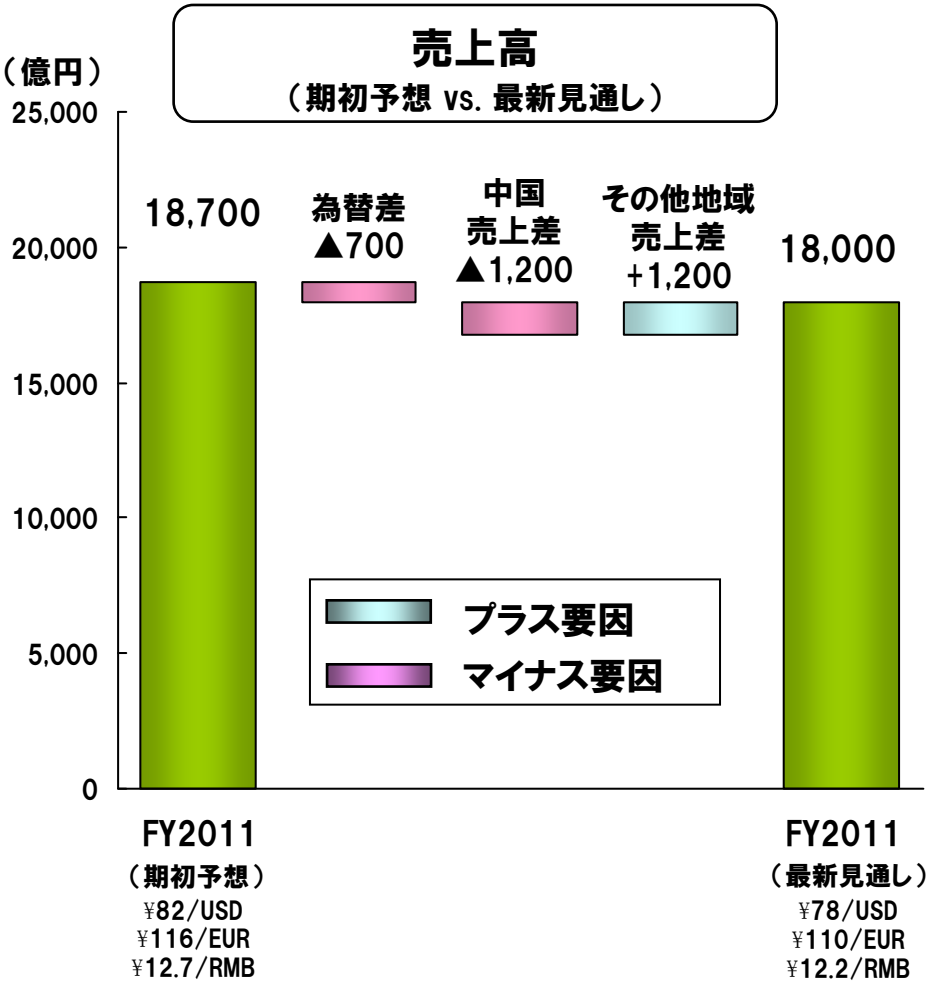
<建設機械・車両> 売上高・セグメント利益の増減要因(対10年実績比)

- ・売上高: 円高によるマイナスおよび中国の需要減を他地域、鉱山機械、部品の増等でカバーし、+1,819億円増収の見通し。
- ・セグメント利益: 円高及び固定費増によるマイナスを、販売価格改善、原価低減および物量増でカバーし、+501億円増益の見通し。



<建設機械・車両> 売上高・セグメント利益の増減要因(対期初予想比)

- ・売上高：中国の需要減は他地域、鉱山機械、部品の増等でカバーするものの、大幅な円高により
期初予想を▲700億円下回る見通し。
- ・セグメント利益：円高によるマイナスを、販売価格の改善、原価低減等でカバーするものの、期初予想を
▲180億円下回る見通し。

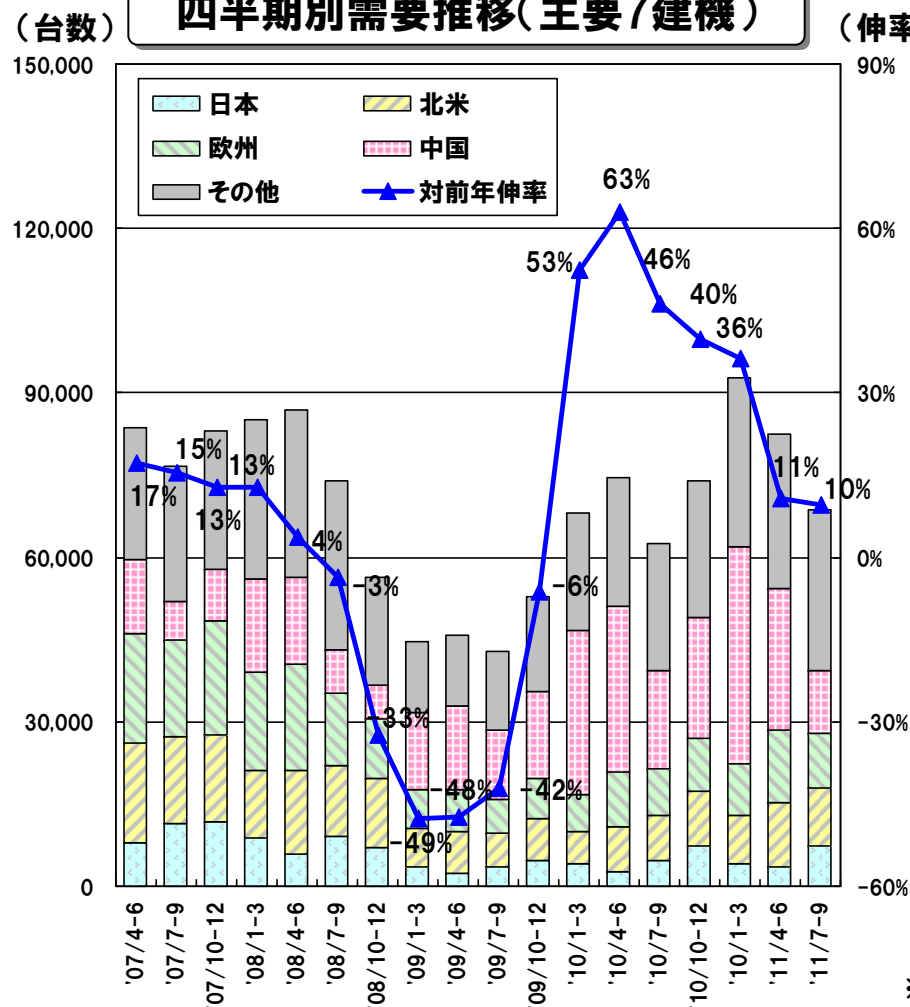


15.5% — 売上高セグメント利益率 — 15.1%

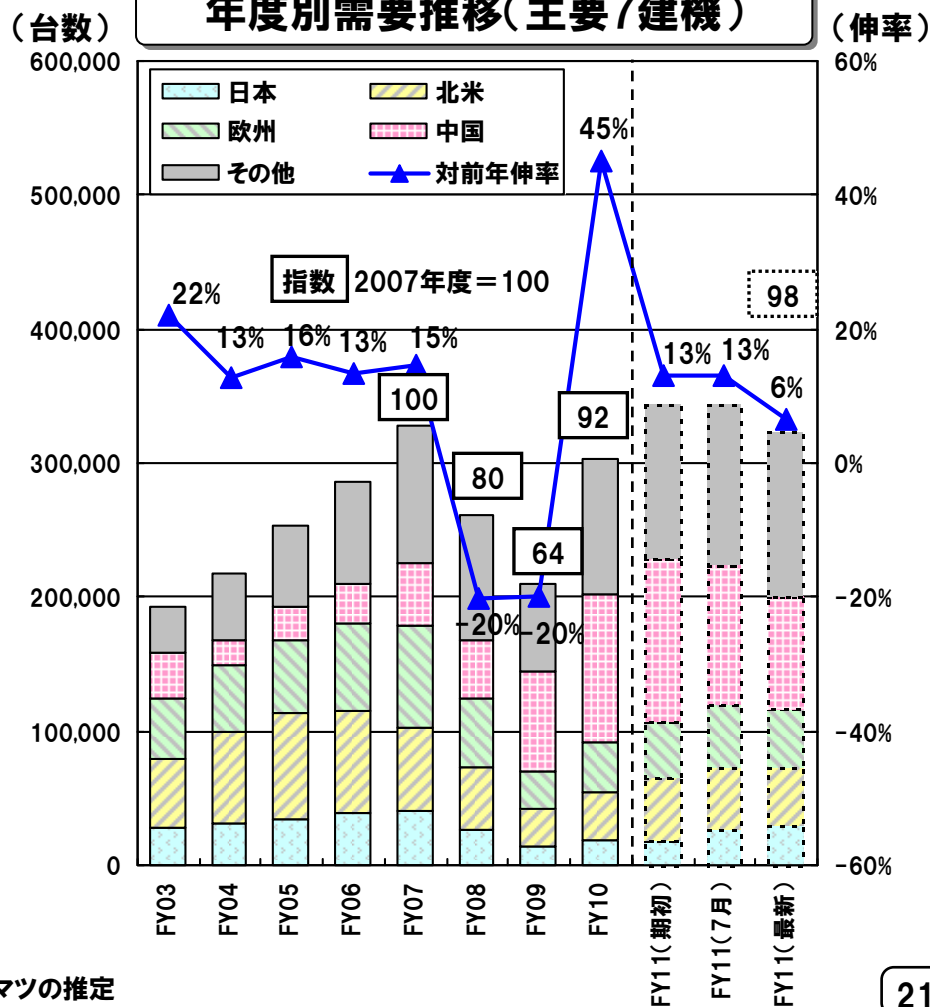
<建設機械・車両> 建設・鉱山機械： 主要7建機需要推移

(2Q実績) 中国市場の減速を、その他の戦略市場と伝統市場が補い、対前年同期比+10%の増加。
(通期見通し) 期初見通しに比べ中国の需要は減少するものの、対前期比では+6%の増加を見込む

四半期別需要推移(主要7建機)



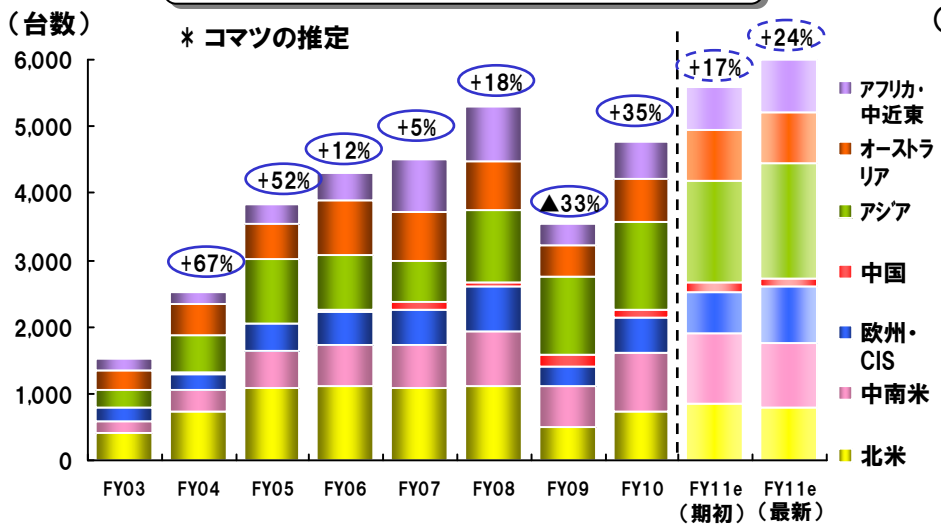
年度別需要推移(主要7建機)



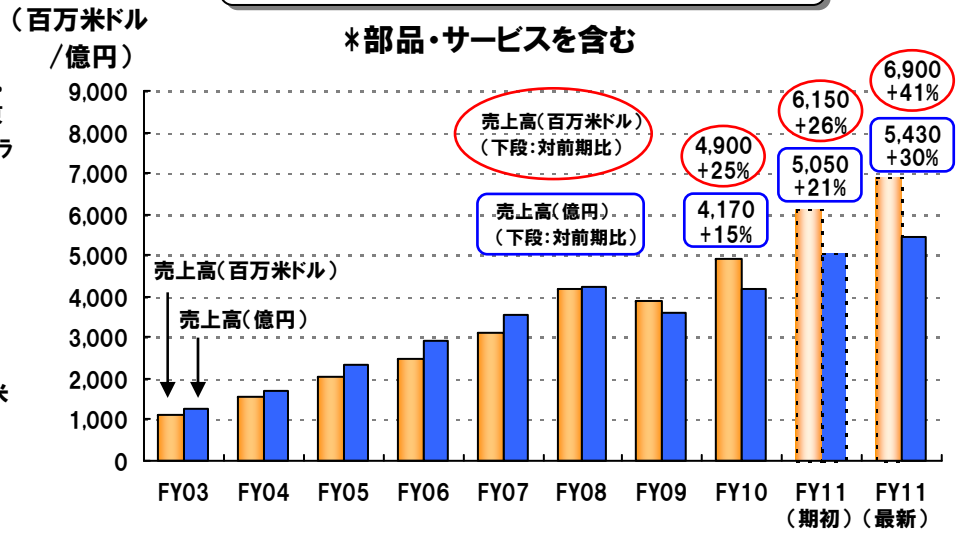
鉱山機械事業の見通し

・鉱山機械の需要は、アジアを中心に堅調に推移し、対前期比+24%の見通し。
・受注残も引き続き堅調に推移しており、売上高は対前期比+30%(円ベース)の見通し。

地域別需要推移(台数ベース)

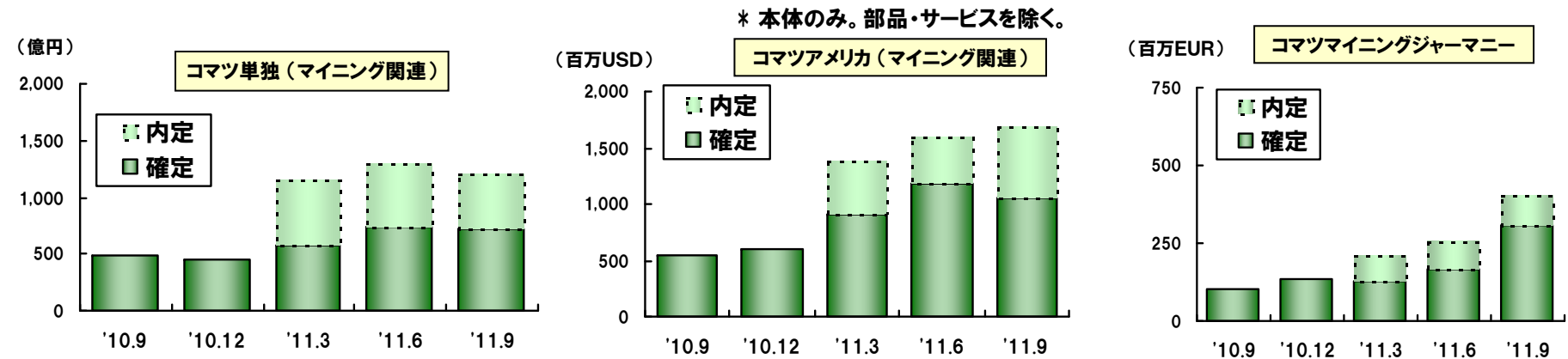


鉱山機械事業の売上高推移



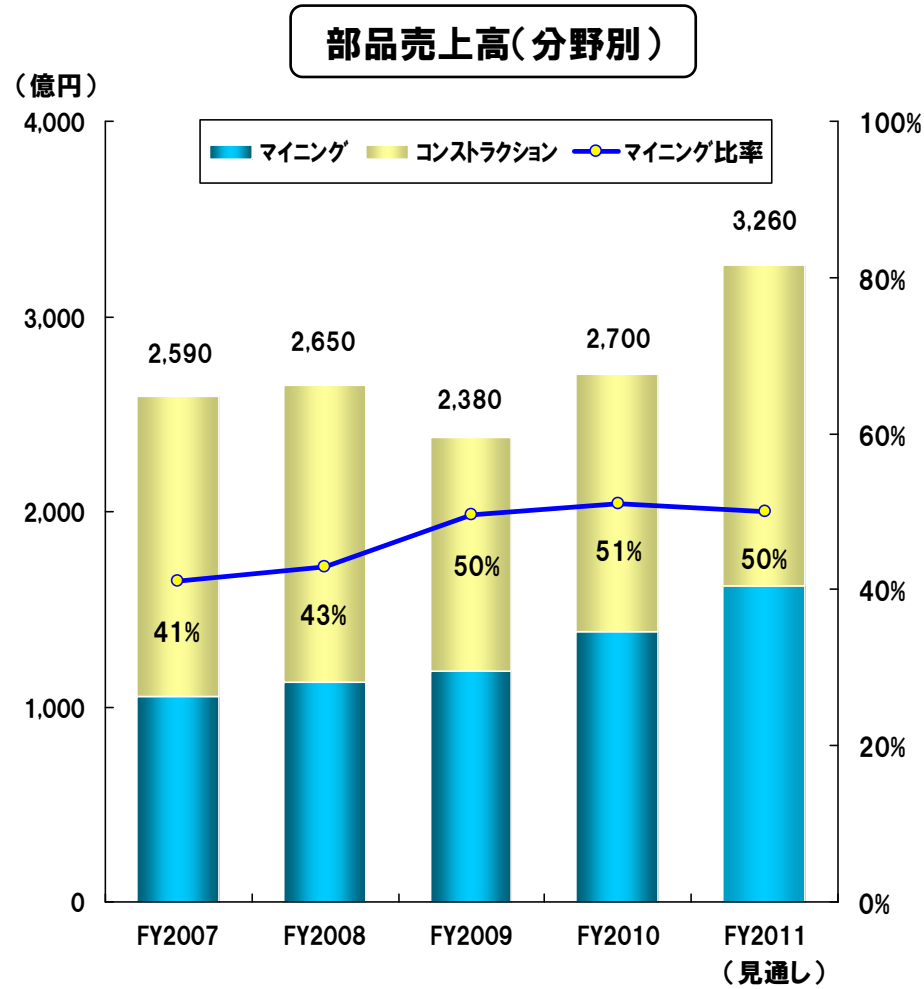
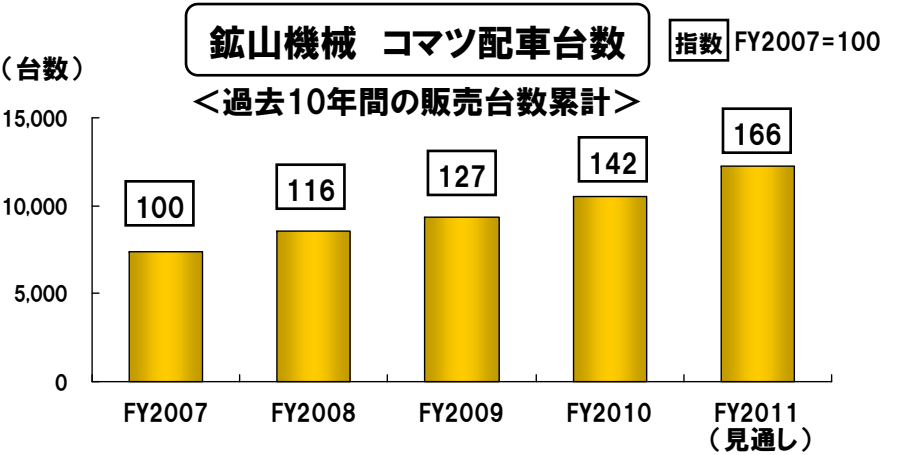
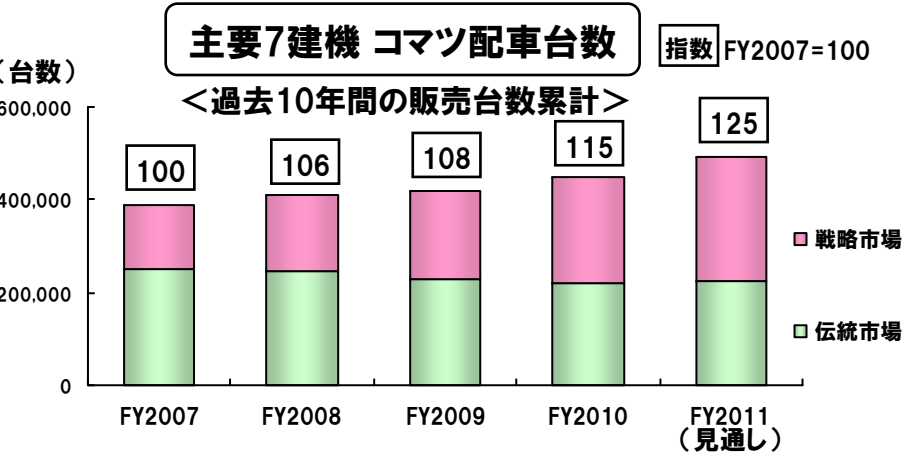
・ダンプトラック: 75t (HD785) 以上
・ブルドーザー: 525HP (D375) 以上
・エクスカベータ: 150t (PC1600) 以上
・ホイールローダ: 500HP (WA700) 以上
・モータグレーダ: 280HP (GD825) 以上

鉱山機械の受注残の状況



部品事業の見通し

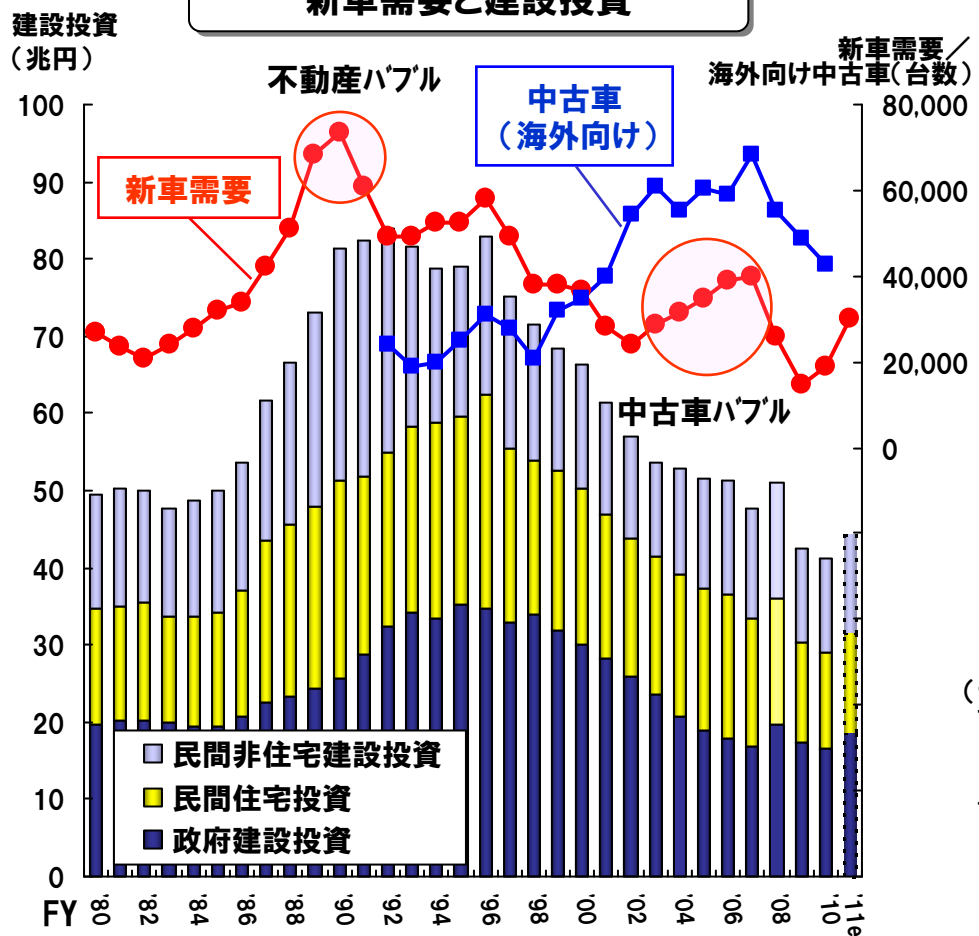
- ・戦略市場での配車台数増加による需要増を確実に取り込み、部品売上げは増収の見通し。
- ・今後も配車台数の増加が見込まれ、部品事業は安定的に成長する見通し。



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し: ①日本

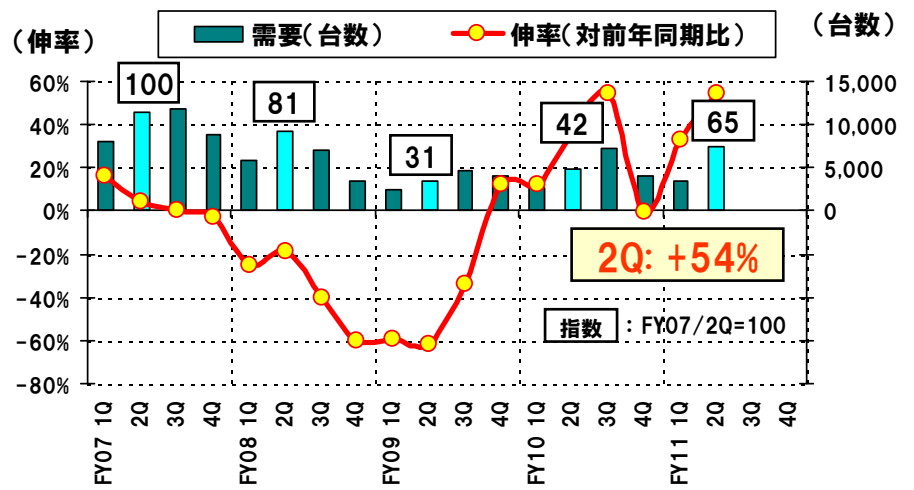
- ・第2四半期の需要は、震災復興のためのレンタル向け需要を中心に、対前年同期比+54%。
- ・通期の需要は、対前期比約+60%の見通し。

新車需要と建設投資



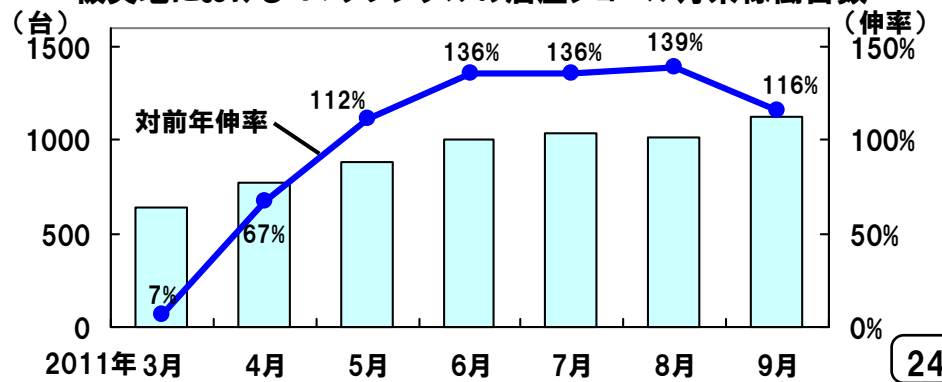
【出所】建設投資:国土交通省/建設経済研究所
主要7建機需要: コマツの推定
中古車発生量: コマツの推定

主要7建機 四半期別需要推移



レンタル稼働台数の推移

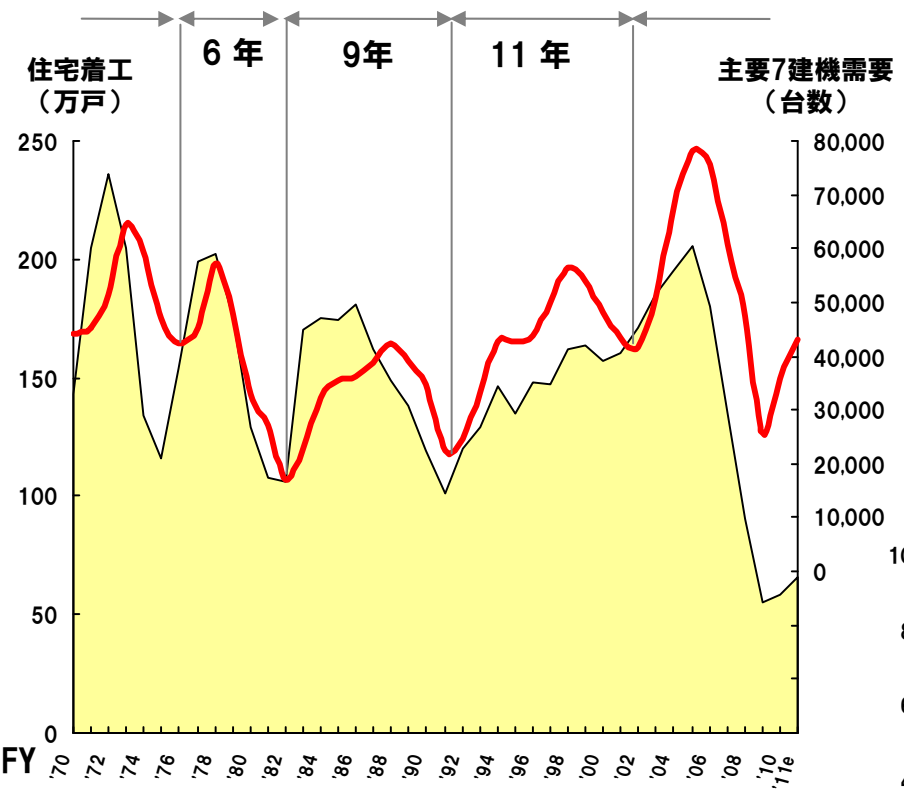
被災地におけるコマツレンタルの油圧ショベル月末稼働台数



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し: ②北米

- ・第2四半期の需要は、レンタルならびに鉱山・エネルギー向けの需要が堅調に推移し、対前年同期比+28%。直近のピークである2005年度比で、約6割の水準。
- ・通期の需要は、対前期比約+25%の見通し。

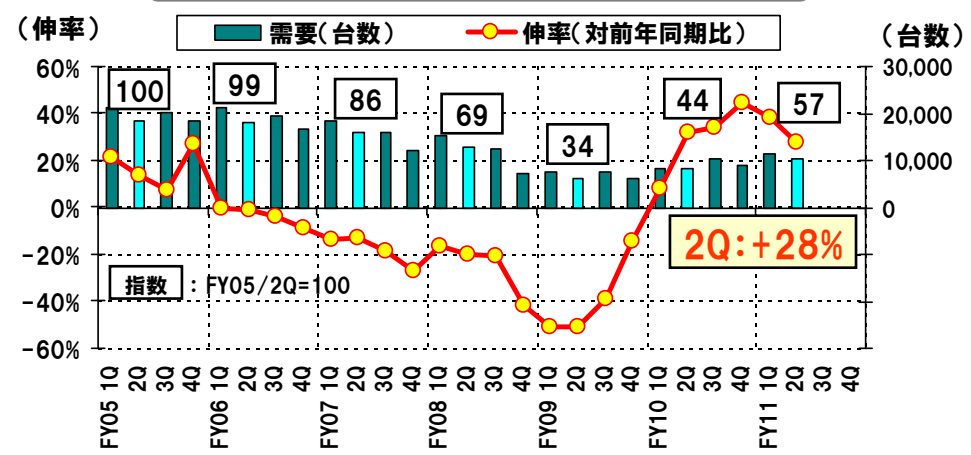
主要7建機需要と米国住宅着工件数



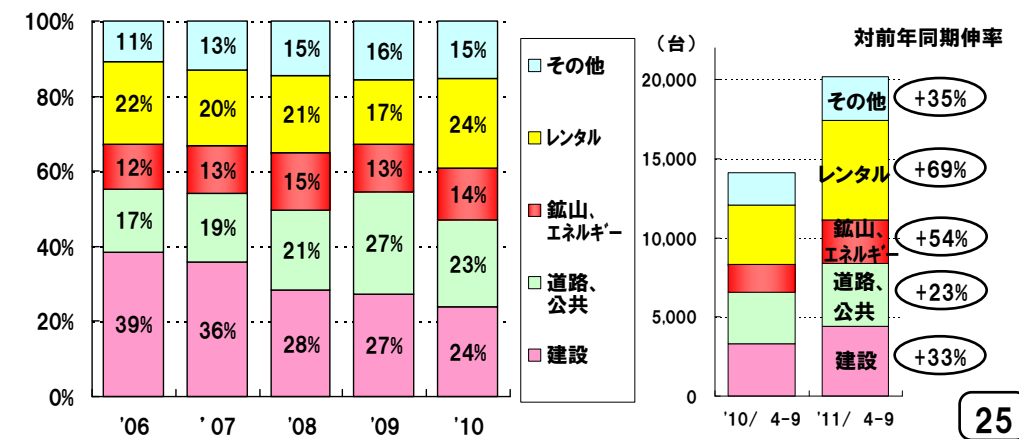
住宅着工 主要7建機需要

住宅着工: 米国商務省 (11年予測は9月度速報値(年率換算))
主要7建機需要: コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移



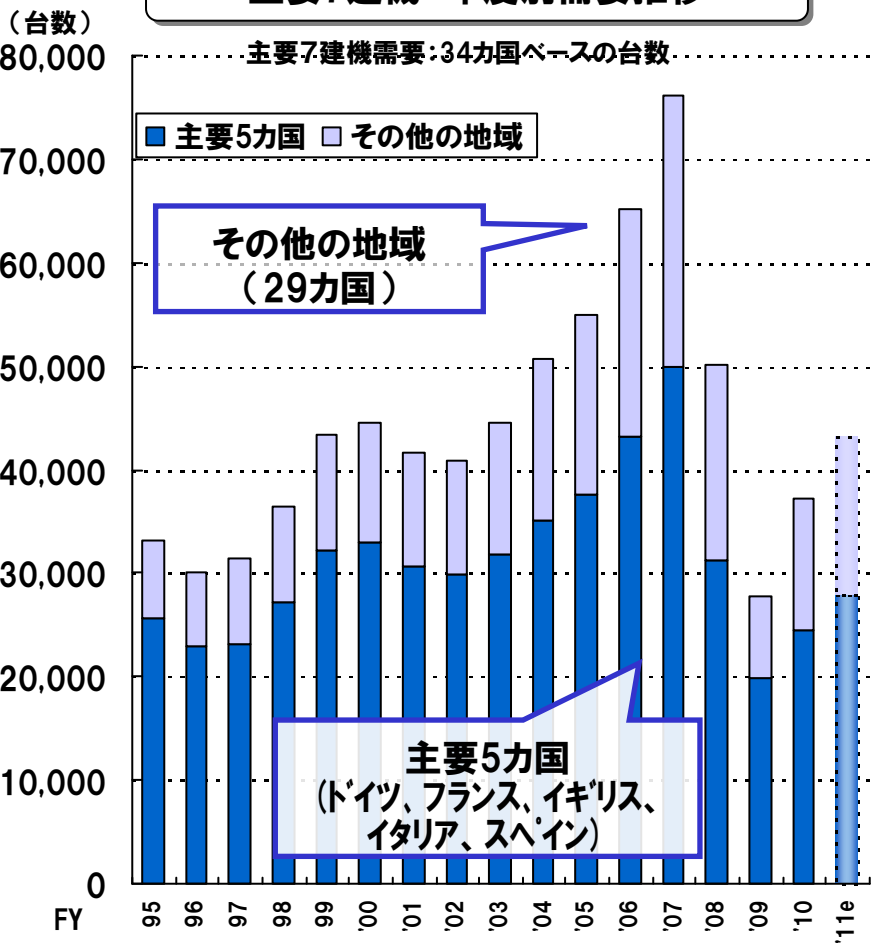
セグメント別需要構成比(台数ベース)



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し: ③欧州

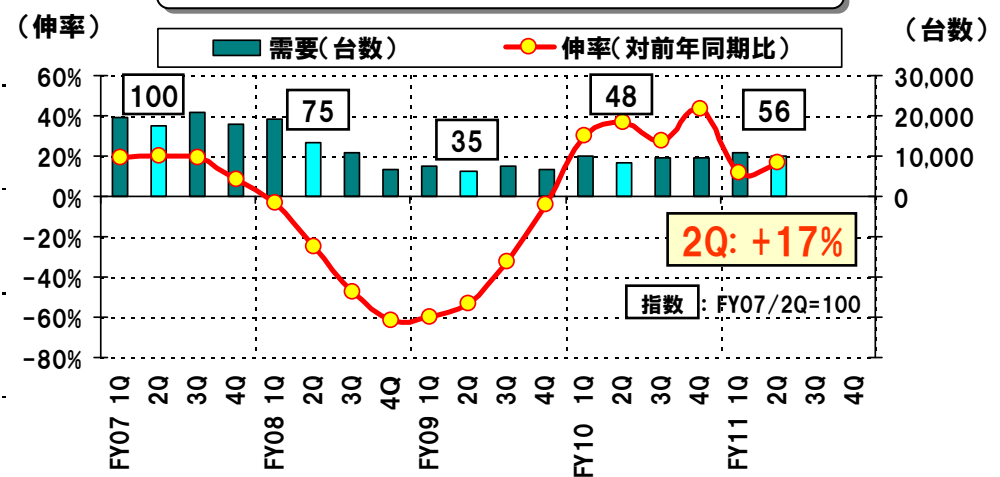
- ・第2四半期の需要は、ドイツ、フランスに加え、北欧が堅調に推移し、対前年同期比+17%。
直近のピークである2007年度比で約6割の水準。
- ・通期の需要は、対前期比約+15%の見通し。

主要7建機 年度別需要推移



* コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移



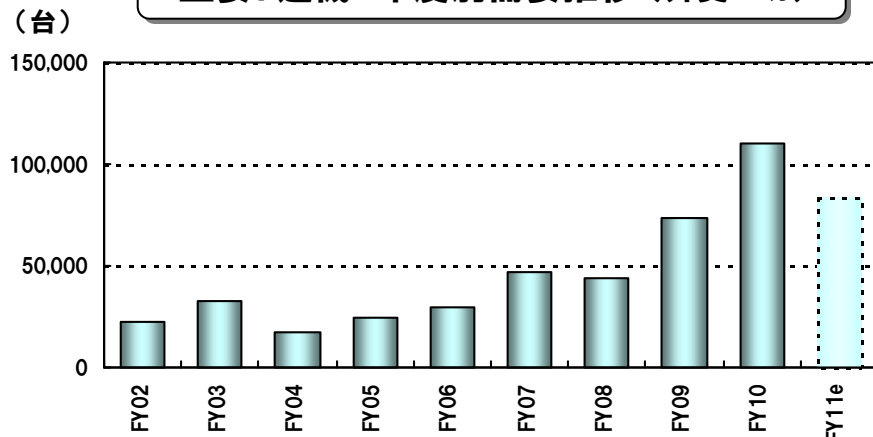
主要国7建機需要の対前年伸率

	2010年 4-8月	2011年 4-8月
ドイツ	+48%	+34%
イギリス	+19%	+7%
フランス	+41%	+25%
イタリア	+45%	▲35%
スペイン	+12%	▲17%
スウェーデン	+52%	+50%
ノルウェー	+24%	+46%
ポーランド	+6%	+15%

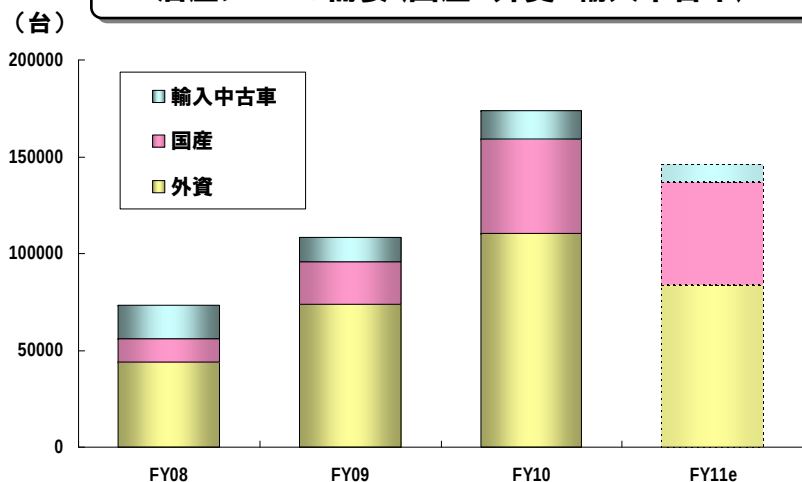
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し: ④中国

- ・政府の金融引締策の影響で、中国の需要(外資メーカ合計)は、5月以降、対前年同月比マイナスが続いており、第2四半期の需要は対前年同期比▲36%。
- ・通期の需要は、対前期比約▲25%の見通し。

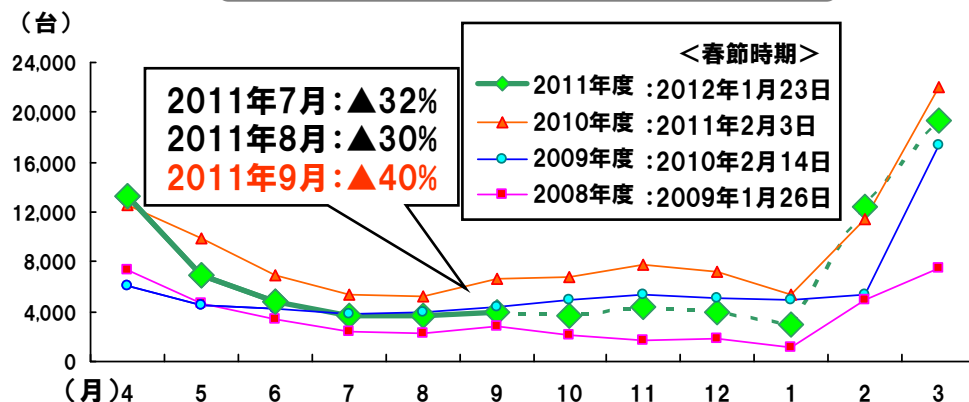
主要7建機 年度別需要推移(外資メーカ)



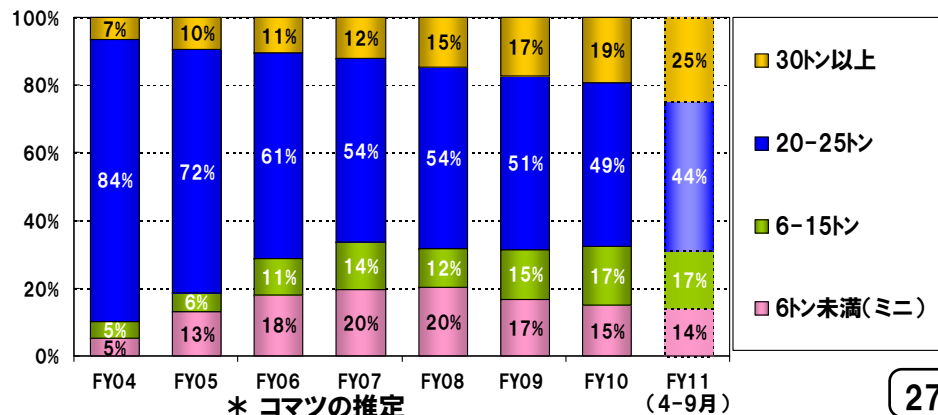
油圧ショベル需要(国産+外資+輸入中古車)



油圧ショベルの月別需要推移(外資メーカ:6トン以上の合計)



油圧ショベルのクラス別需要構成比(外資メーカ:ミニ含む)

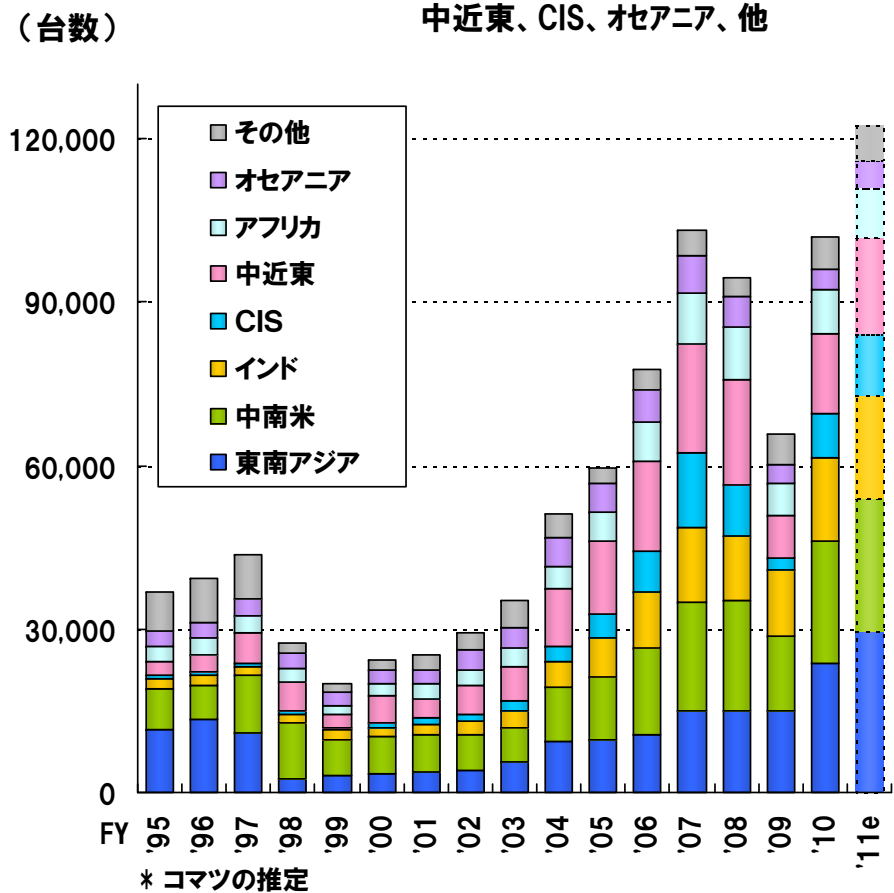


<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し: ⑤その他戦略市場

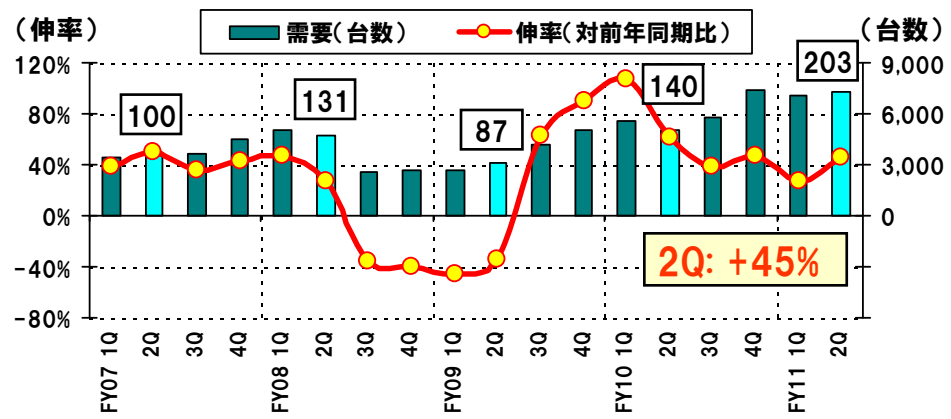
- ・第2四半期の需要は、好調な東南アジアをはじめとして、各地域とも堅調に推移し、対前年同期比+27%。
- ・通期の需要は、対前期比約+20%の見通し。

主要7建機の需要推移

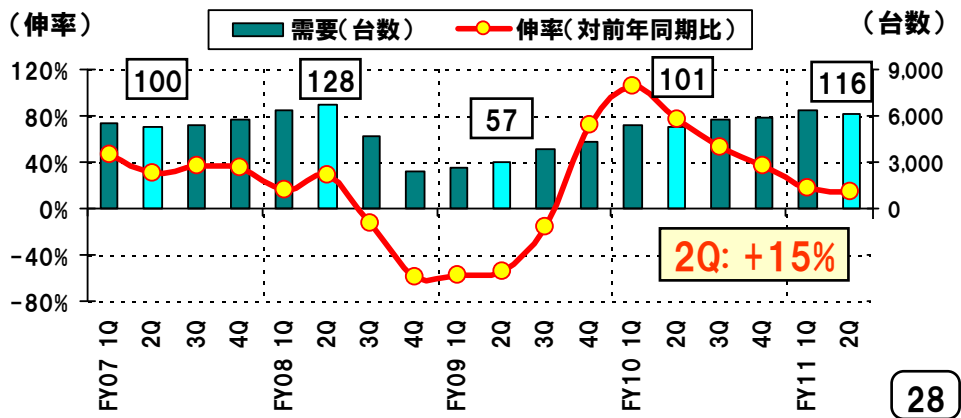
その他戦略市場：東南アジア、中南米、インド、アフリカ、中近東、CIS、オセアニア、他



東南アジア 主要7建機 四半期別需要推移



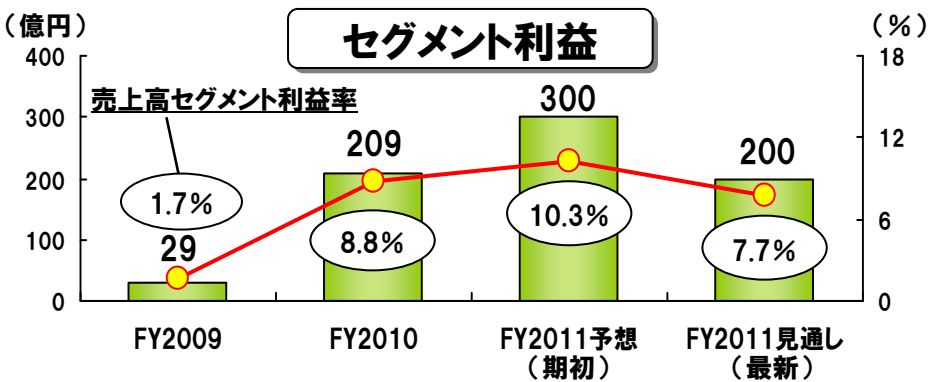
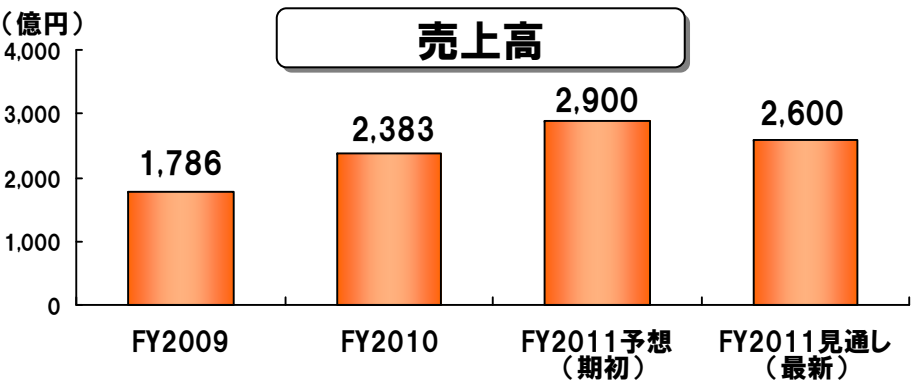
中南米 主要7建機 四半期別需要推移



4. 産業機械他部門の事業環境と見通し

<産業機械他> 売上高とセグメント利益の見通し

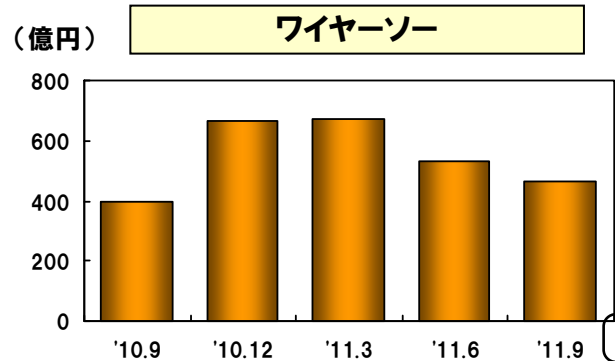
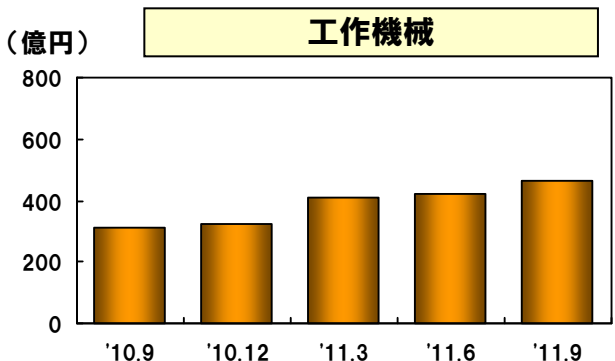
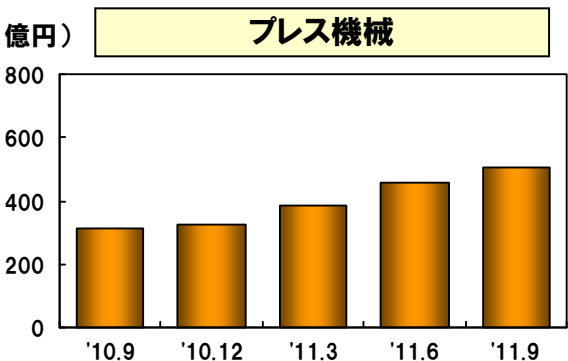
- ・ワイヤーソーの販売減を、プレス機械、工作機械、仮設ハウス等の販売増でカバーし、対前期比増収の見通し。
- ・プレス機械、工作機械の受注は引き続き堅調に推移。



売上高の内訳
(FY2010 vs. FY2011見通し)

金額単位: 億円	FY10実績	FY11見通し (最新)	対前期比
コマツ産機	322	461	+139
コマツNTC (内ワイヤーソー)	1,291 (830)	1,224 (550)	▲67 (▲280)
その他	770	915	+145
合 計	2,383	2,600	+216

受注残の状況



5. リテールファイナンス

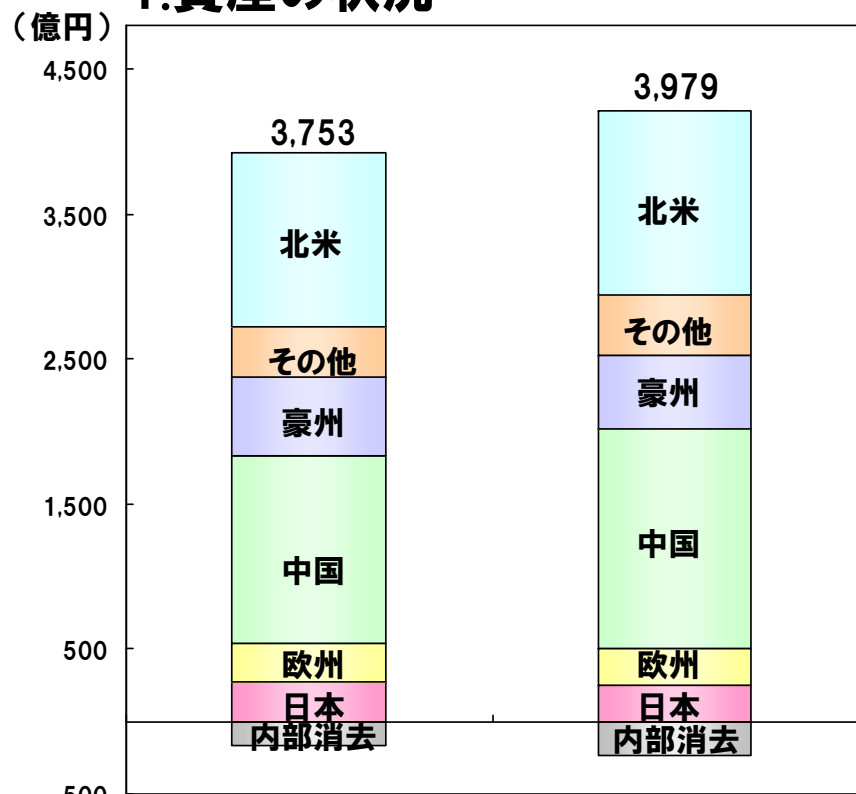
設備投資・減価償却費、研究開発費、固定費

リテールファイナンスの状況

・戦略市場に加え、北米の資産が増加する見通し。対前期比で増収増益となる見通し。

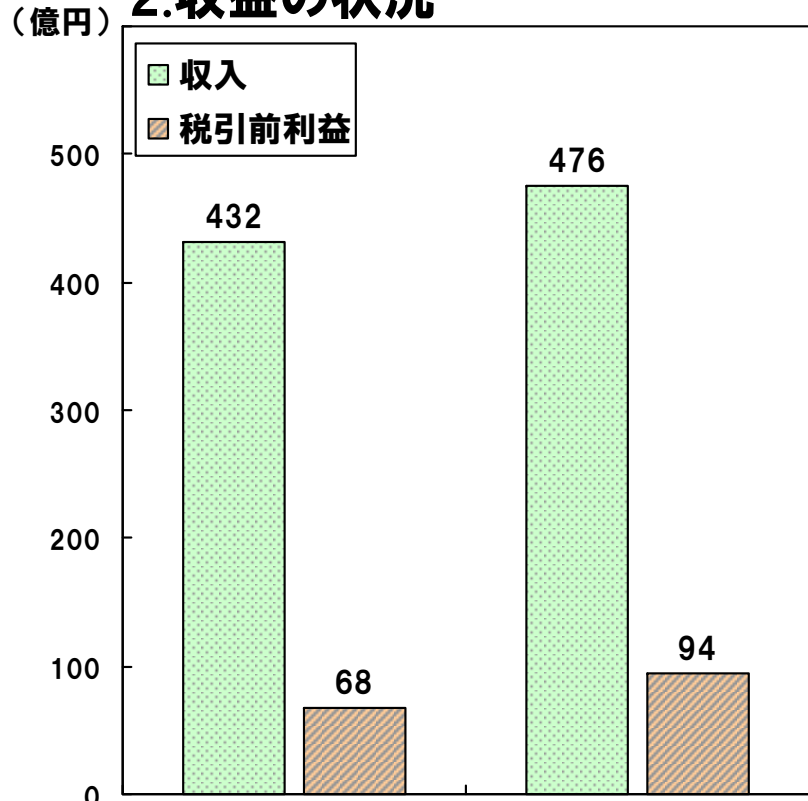
リテールファイナンス子会社の状況（社内管理ベース）

1.資産の状況



(ドル)	83 円	77 円
(ユーロ)	118 円	106 円
(元)	12.7 円	12.1 円

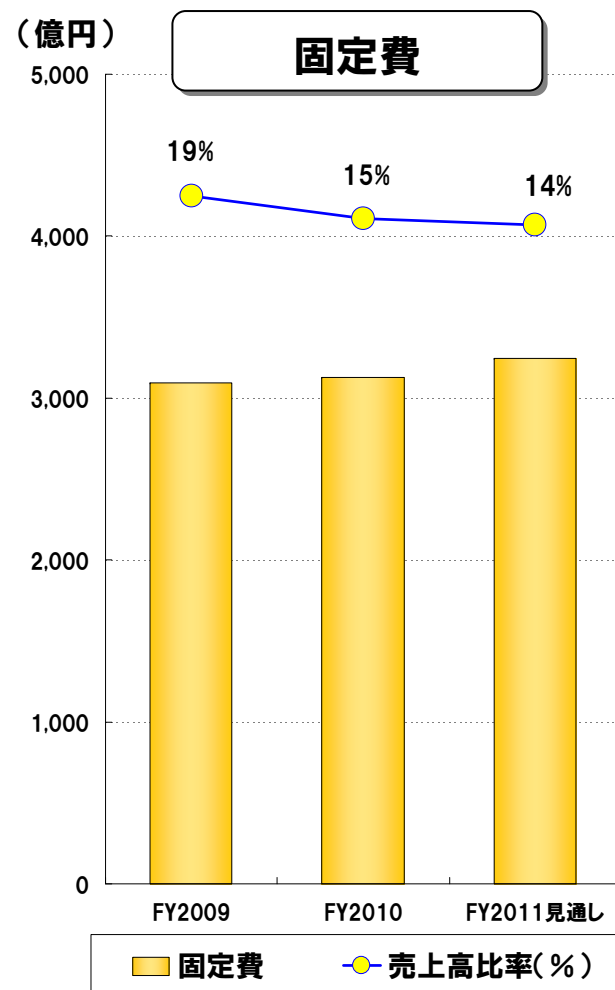
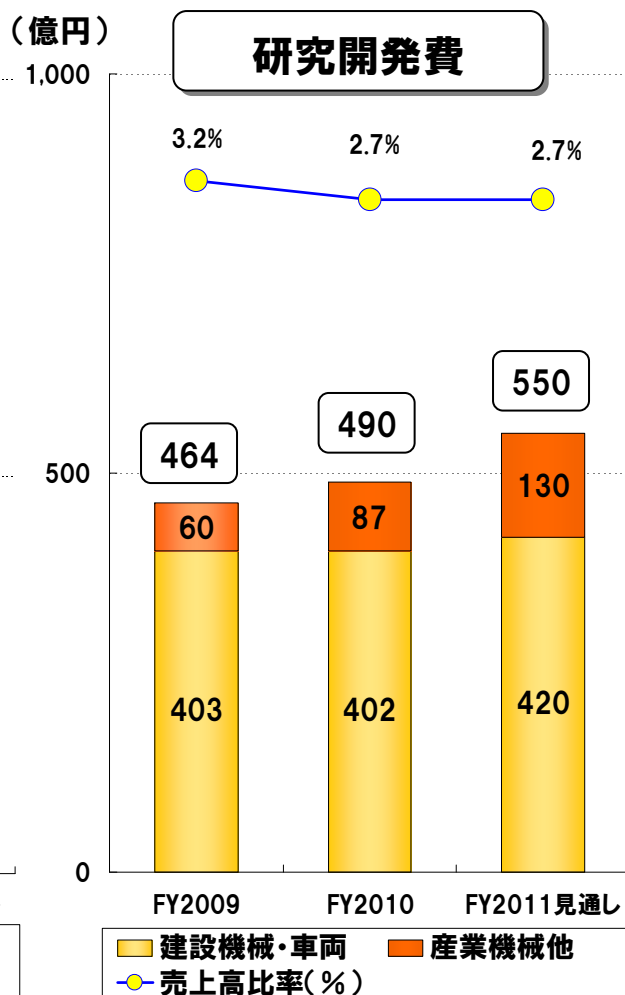
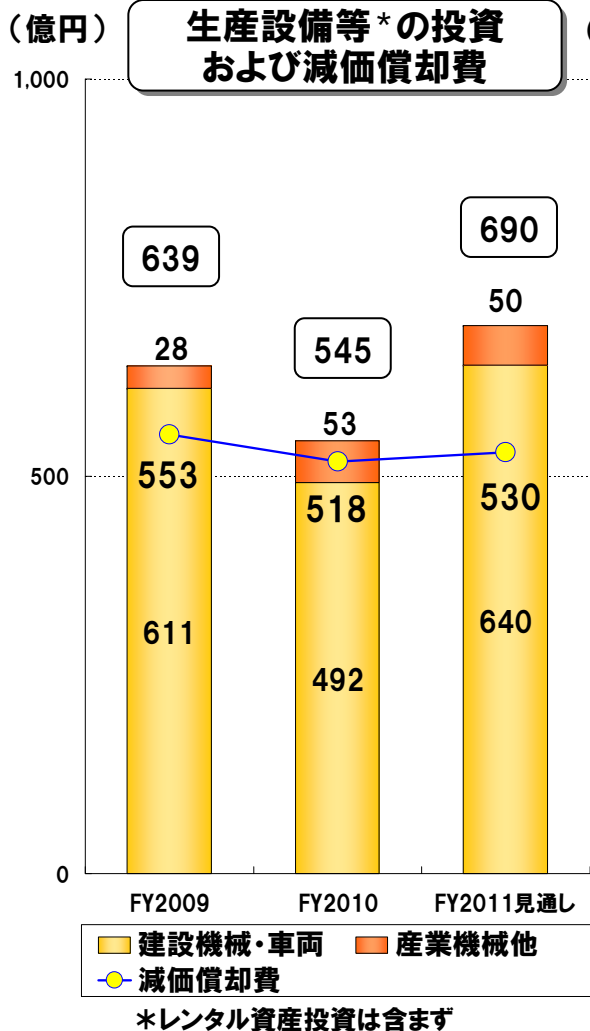
2.収益の状況



(ドル)	85 円	78 円
(ユーロ)	113 円	110 円
(元)	12.7 円	12.2 円

設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

- ・今後の成長に備え、試験研究設備等を中心に設備投資を実施。
- ・研究開発は、今後の成長に向けて、ICT化、環境対応、安全性向上等に投資。
- ・売上高が増加する中、引き続き固定費は抑制。



6. 中期経営計画

**「Global Teamwork for Tomorrow」
の進捗状況**

中期経営計画目標値と進捗状況

- ・円高が進む中、中期経営計画の各数値は目標達成に向けて順調に進捗。
- ・特に売上高営業利益率は大幅な円高にもかかわらず、着実に改善が進んでいる。

中期経営計画(FY2010-FY2012)の数値目標と進捗状況

NO	項 目	FY2012目標	(参考) FY2009実績	FY2010 実績	FY2011 上期実績	FY2011 見通し
1	売上高営業利益率(全社)	15%	4.7%	12.1%	13.5%	13.8%
2	ROE	20%	4.1%	17.2%	-	19.6%
3	ネット・デット・エクイティ・レシオ	0.4以下	0.60	0.50	0.52	0.52
	(除くりテールファイナンス会社借入金)	0.2以下	0.36	0.24	0.24	0.24
4	連結配当性向	安定配当: 20-40%	38%*	24%	-	22%

*構造改革費用を除く実質ベース

前提条件と実績

NO	項 目		FY2012	(参考) FY2009実績	FY2010 実績	FY2011 上期実績	FY2011 見通し
1	売上高 (億円)		20,000 (±1,000)	14,315	18,431	-	20,500
2	為替	US\$ (円)	90	93	85	79	78
		EUR (円)	125	131	113	114	110
		元 (円)	13.5	13.6	12.7	12.3	12.2

重点活動項目①：製品・部品のICT化の推進

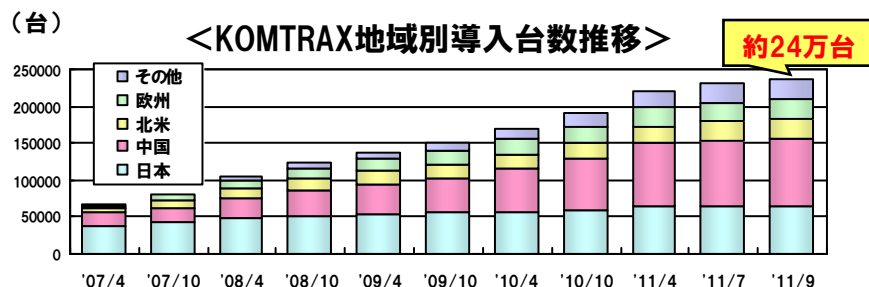
- ・KOMTRAXは、全世界で約24万台が稼働中。(2011年9月末現在)
- ・AHS(無人ダンプトラック運行システム)は今後の導入先、導入台数の拡大に向けた取組みを推進中。
- ・情報化施工は、今後の事業拡大に向けて、販売・サポート体制の構築および新商品開発を推進中。

1. KOMTRAXの進化

(1) KOMTRAX

① 導入地域の拡大(約70カ国)

- ・FY11上期実績：フィリピン、ベトナム、南アフリカ
- ・FY11下期以降：ロシア、UAE等で導入準備中



② 活用の更なる促進

- ・新排ガス規制対応地域で、KOMTRAXによる無償メンテナンス保証をパッケージ化し、代理店活用を促進

(2) KOMTRAX Plus (鉱山機械の健康管理システム)

- ・KOMTRAX Plusデータの活用によるオーバーホール需要の取り込み強化

(3) KOMTRAX Parts (部品の状態、交換履歴の把握)

- ・実用化に向けたテストを継続中

2. AHS (無人ダンプトラック運行システム)

- ① チリ、オーストラリア：計22台導入済
- ② 導入先、導入台数の拡大に向けて準備中

3. 情報化施工 (建設現場の自動化)

- ① ダントツ情報化建機の開発
 - ・北米でのシーディングテスト開始
- ② 北米代理店における販売体制構築の推進

パイロット代理店に対して、

 - ・デモ機を導入
 - ・営業、サービスマン向けトレーニングの実施

<自動制御イメージ：ブルドーザの場合>



重点活動項目②：環境・安全性能の更なる進化

- ・ハイブリッド油圧ショベルは、累計販売台数1,100台を突破。
モデルチェンジ車「HB205/215LC」は日本に加え、北米、欧州、アジア、オセアニア等で市場導入済。
- ・米国で新排ガス規制(Tier4)対応機種を導入済。
- ・鉱山向けダンプトラックのバイオディーゼル燃料プロジェクトおよび電動ミニ建機の開発を推進中。

1. ハイブリッド油圧ショベル

- ①HB205/215LCのグローバル展開
 - ・約420台を販売済（'11/9月末時点）
 - ・FY11/下期：中南米（ブラジル、チリ）、中国等で販売開始

【販売実績】（'11/9月末時点）

モデル	地域	台数
PC200-8 ハイブリッド (約690台)	日本	約260台
	中国	約430台
HB205 /215LC (約420台)	日本	約360台
	北米、欧州、アジア オセアニア	約60台
計		約1,110台

- ②機種系列の拡大
 - ・30トンクラス油圧ショベル
 - ・ホイールローダ 等

2. 新排ガス規制(Tier4)対応

- ①対応機種の市場導入状況
 - ・米国で市場導入済（油圧ショベル、ブルドーザ）
- ②サポートプログラムの充実による市場導入支援
コマツアメリカ「Komatsu CARE」プログラムの例
 - ・無償点検（500時間毎、～2,000時間/3年間まで）
 - ・DPF（フィルタ）無償交換（2回、～9000時間/5年間まで）
 - ・DPF（フィルタ）洗浄を含めた部品拡販、メンテナンス契約の強化等

3. 鉱山機械・ユーティリティ機械

- ①バイオディーゼル燃料(BDF)プロジェクト
 - ・'11/5月 BDF精製プラント開所式
 - ・ジャトロファBDFを使用した実用試験実施中（順調に稼働中）
- ②ユーティリティ
 - ・フォークリフト：HST車の本格導入準備中
 - ・ミニ建機：電動ミニショベル、電動ミニホイールローダ
ユーザーテストに向けた開発・試験実施中



実用試験中のダンプトラック
「HD785」



電動ミニショベル（試作機）

重点活動項目③： 戦略市場での販売・サービス体制拡充

- ・ 鉱山機械の配車台数増加に対応したリマン・リビルド生産能力の増強、および部品の品揃え拡充を推進中。
- ・ 戦略市場の配車台数増加に対応したサービス体制の強化(中国、アジア等)を推進中。

1. 戦略部品の拡販 (GET・UC・リマン・定期交換部品)

①リマン・リビルド生産能力の増強

- ・ リマン工場(コマツリマンインドネシア、コマツリマンアジア)での大型エンジン生産能力増強

・ 新興国でのリビルドセンタ拡充

‘11/5月：ロシア(クズバス)稼働開始

現在4拠点(中国2、インド1、ロシア1)

今後ブラジルにも開設予定



クズバス サービスサポートセンタ(左)とセンタ内のリビルドセンタ(右)

②品揃えの拡充と販売体制の強化

・品揃えの拡充

Meバケットの機種拡大

(中国：30トンクラス、FY11/下期～)

土木専用履帯の市場導入(中国：‘11/4月～)

・代理店の部品販売体制、商品教育の強化

2. 現場に直結したサービス体制の強化

①サービスサポートセンタの拡充

・ 11拠点(‘09/3月) → 27拠点(‘11/9月)

FY11下期以降予定：モンゴル、ロシア(ハバロフスク)

②パーツデポの拡充

・ 33拠点(‘09/3月) → 38拠点(‘11/9月)

FY11下期以降予定：インド、マレーシア、オマーン

③サービス員・メカニックの育成強化

・ フィリピン人材開発センタ

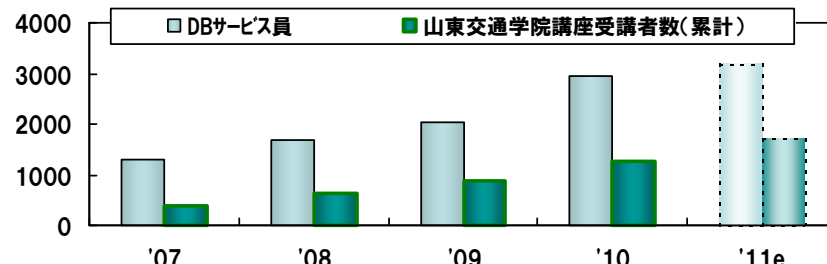
鉱山機械のグローバルメカニック育成継続

(第1・第2期生31名が鉱山現場で実習中)

・ 中国 山東交通学院との提携による

サービス員育成講座の継続

< 中国代理店サービス員・山東交通学院講座累計受講者数の推移 >



重点活動項目④：現場力の強化による継続的な改善の推進

- ・グローバル販生オペレーションセンタによるトータルサプライチェーンの「見える化」を推進。
- ・KOMTRAXデータの活用により、各地域・国単位の販生からグローバル販生へ進化。

グローバル販生オペレーションセンタ
(2011年4月 大阪工場開発センタ内に設置)

・代理店在庫“ゼロ”（全世界）
・リテール販売の日々管理実現

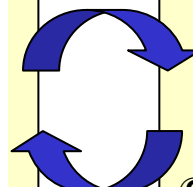
グローバル販生オペレーションセンタ

各地域販生

①KOMTRAXデータ分析
・機種、地域、ユーザーセグメント別稼働状況



②需要分析
・経済指標(GDP、固定資産投資、資源価格等)



・引合
・受注
・リテール実績

・販売計画
・生産計画

・生産、出荷
・DB納入

・顧客納入

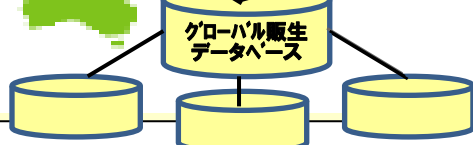
マイニング
需要増

中国
需要減

インドネシア
需要増

車体・コンボ工場 現法 代理店

グローバル販生データベース



①Webカメラ画面

②車両進捗画面(Kom-VISION)

③グローバル販売・生産・在庫
コックピット画面

④KOMTRAX画面・グラフ



<生産ラインの見える化>

<生産進捗状況の見える化>

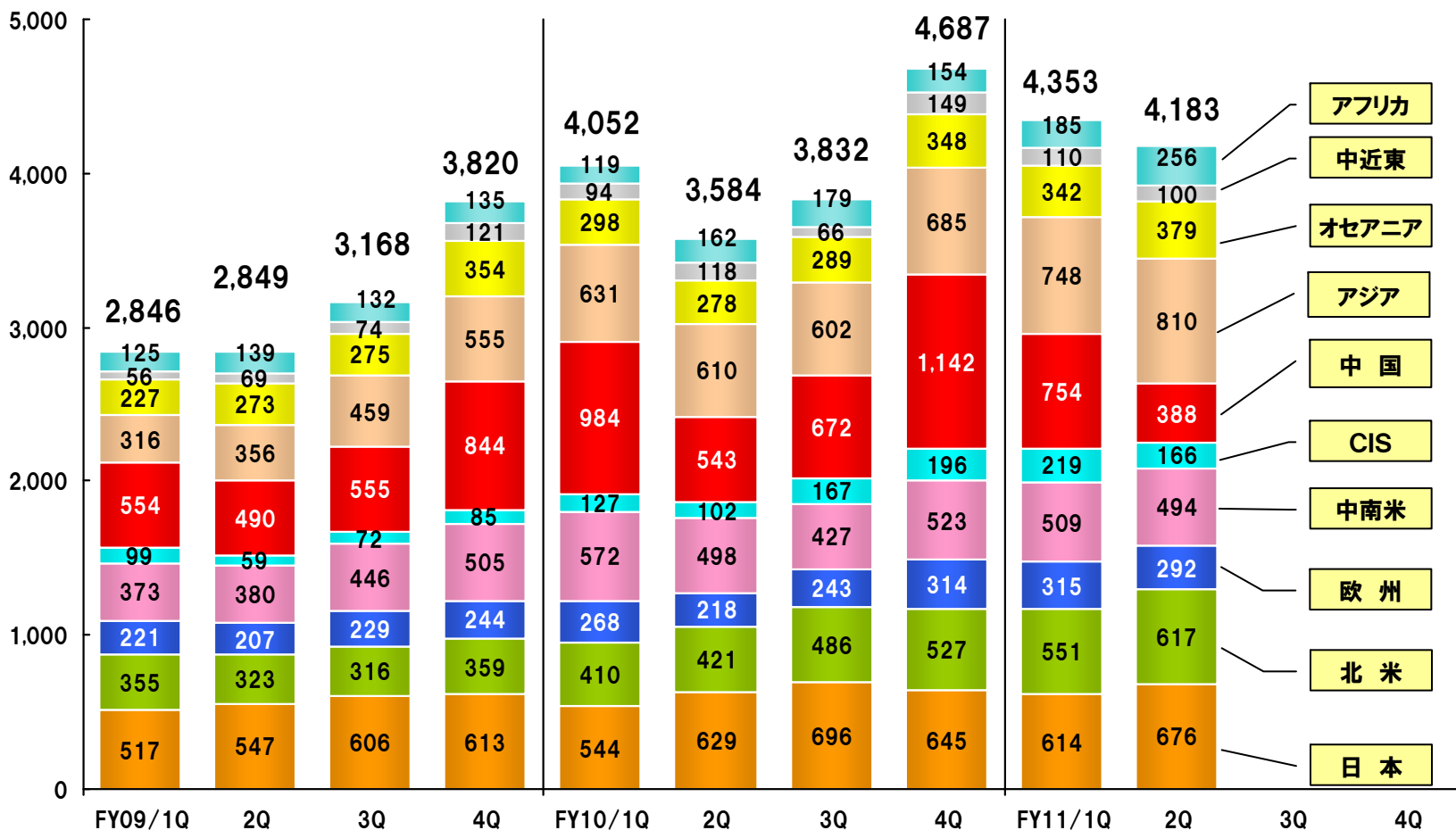
<販売・生産・在庫の見える化>

<稼働状況の見える化>

<資 料>

<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高(外部顧客向け)

(億円)



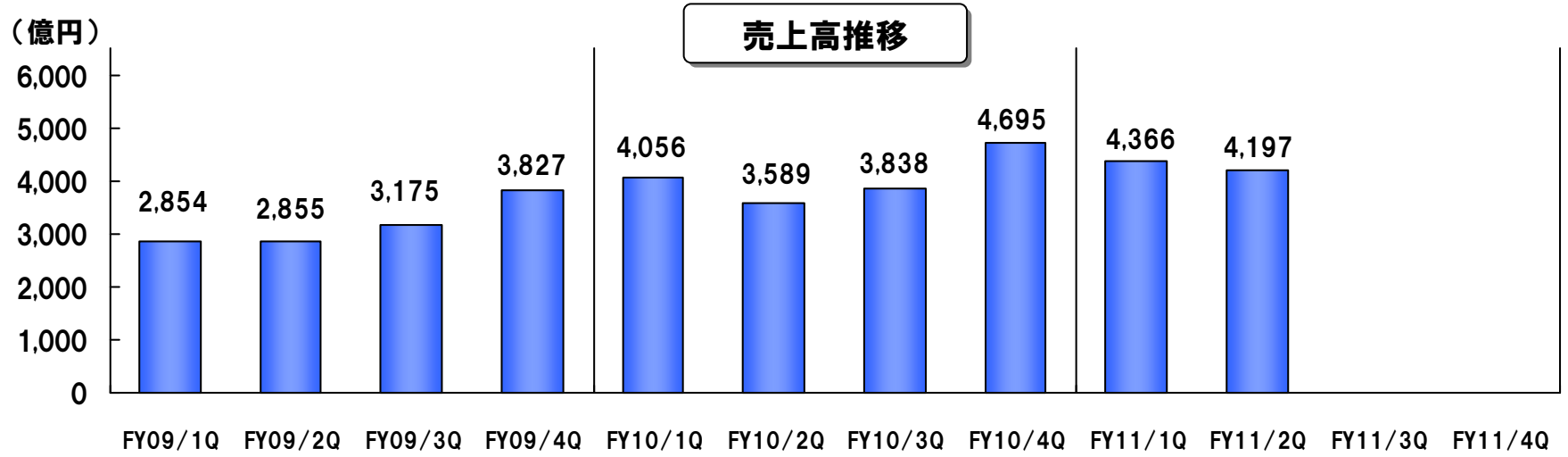
【為替レート】

	09/1Q	09/2Q	09/3Q	09/4Q
ドル	97円	93円	90円	91円
ユーロ	133円	133円	133円	124円
元	14.2円	13.6円	13.2円	13.3円

	10/1Q	10/2Q	10/3Q	10/4Q
ドル	91円	85円	82円	82円
ユーロ	115円	111円	110円	114円
元	13.4円	12.6円	12.4円	12.5円

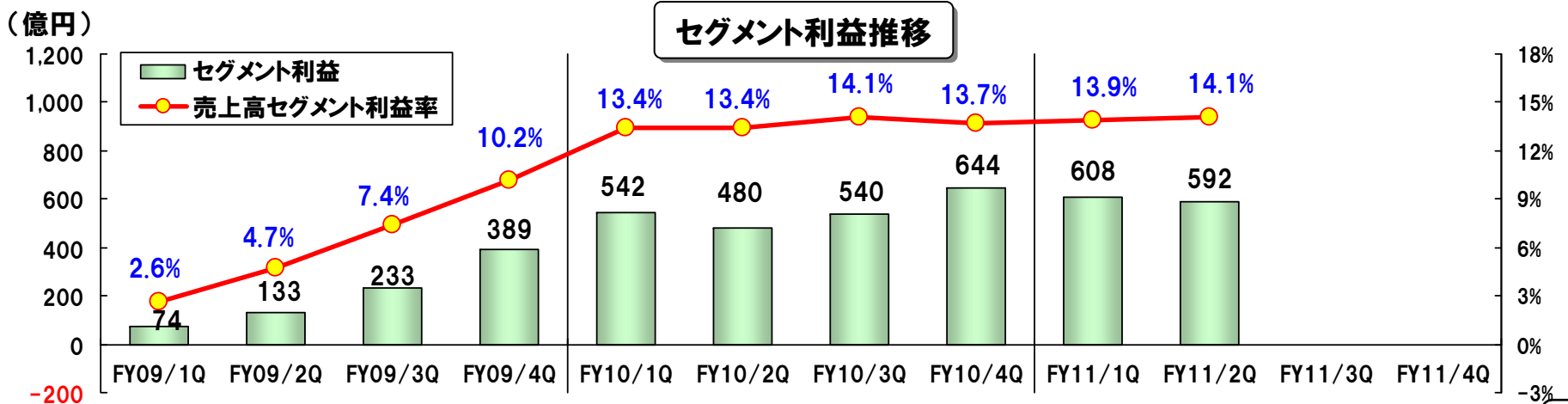
	11/1Q	11/2Q	11/3Q	11/4Q
ドル	81円	77円	円	円
ユーロ	118円	109円	円	円
元	12.5円	12.1円	円	円

＜建設機械・車両＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移



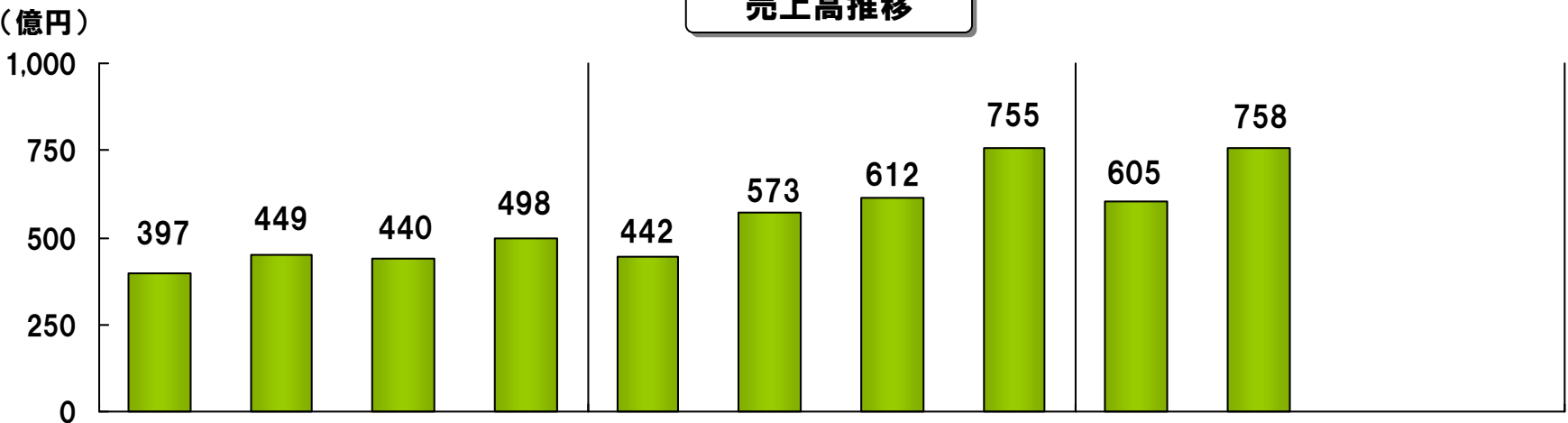
【為替レート】

	09/1Q	09/2Q	09/3Q	09/4Q	10/1Q	10/2Q	10/3Q	10/4Q	11/1Q	11/2Q	11/3Q	11/4Q
ドル	97円	93円	90円	91円	91円	85円	82円	82円	81円	77円	円	円
ユーロ	133円	133円	133円	124円	115円	111円	110円	114円	118円	109円	円	円
元	14.2円	13.6円	13.2円	13.3円	13.4円	12.6円	12.4円	12.5円	12.5円	12.1円	円	円



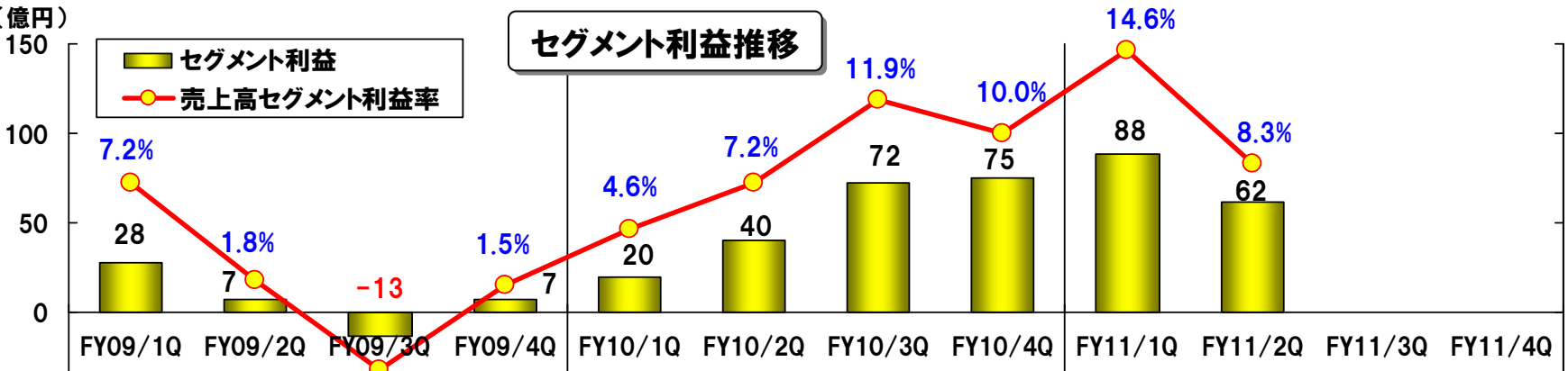
<産業機械他> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

売上高推移



【為替レート】

	09/1Q	09/2Q	09/3Q	09/4Q	10/1Q	10/2Q	10/3Q	10/4Q	11/1Q	11/2Q	11/3Q	11/4Q
ドル	97円	93円	90円	91円	91円	85円	82円	82円	81円	77円	円	円
ユーロ	133円	133円	133円	124円	115円	111円	110円	114円	118円	109円	円	円
元	14.2円	13.6円	13.2円	13.3円	13.4円	12.6円	12.4円	12.5円	12.5円	12.1円	円	円





ブレードの自動制御機能を
搭載したブルドーザ
「D65-17」

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。